

住江織物グループ CSRレポート 2021

住江織物株式会社

本書に関するお問い合わせ先

住江織物株式会社 CSR推進室
〒542-8504 大阪市中央区南船場3-11-20
TEL: 06-6251-6817 FAX: 06-6251-6806
E-Mail: csr@sin.suminoe.co.jp
URL: <https://suminoe.co.jp/>



この冊子に使用している用紙は、世界の森林資源の責任ある利用を保証しています。



環境負荷が少ない
植物油インキを
使用しています。



印刷工程で有害廃液を
出さず、湿し水が不要
な「水なし印刷方式」を
採用しています。



ユニバーサルデザイン
(UD)の考えに基づい
た見やすいデザインの
文字を採用しています。



快適な空間と彩りのある暮らしを

住江織物グループは138年にわたって常に社会のニーズを探り、よりよい製品づくりに努めてまいりました。これからもテキスタイルメーカーとして、最先端の空間づくりに挑戦し続けます。

編集方針

本レポートは、あらゆるステークホルダーのみなさまに、当社グループが目指す経営戦略や事業・CSR活動の報告を通じて、総合的に当社グループへの理解を深めていただくことを目的として発行しています。

報告対象期間

2020年度(2020年6月～2021年5月)
但し、一部対象期間外の活動も含みます。

報告対象範囲

住江織物(株)ならびに国内外の連結対象子会社
但し、項目により対象範囲が異なります。

参考としたガイドライン

ISO26000(社会的責任に関する手引き)
価値協創ガイダンス

発行年月

2021年12月(次回発行予定2022年12月)

目次

編集方針・目次	1
住江織物グループの事業とグローバル拠点	3
トップメッセージ	5
中長期経営目標	
[SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027]	6

特集

1 対談 ラストワンタッチを支える住江織物	9
2 グローバル展開 海外事業所紹介	13

住江織物グループの事業と戦略

事業セグメント別概況・成長戦略	15
-----------------	----

成長を支える基盤

CSRへの取り組み	
住江織物グループの経営理念とCSRの体系	23
2020年度のCSR活動実績	25

ガバナンスの強化

コーポレートガバナンス	27
コンプライアンスの徹底	29
リスクマネジメント	31

社会への取り組み

従業員の成長	33
住江織物グループの労働安全衛生推進	35
従業員の活躍	37
地域社会とのコミュニケーション(社会貢献活動)	39

環境への取り組み

環境マネジメント～KKR+Aのテーマのもとに	40
エコチャレンジ2021	42
エコチャレンジ2021(2020年度実績)	43

コラム／編集後記	46
----------	----

世界に広がる住江織物グループ

研究・技術開発、製造、販売、各エキスパートが緊密に連携し、グループの持つ力を最大限に活かす—
これが住江織物グループの最大の強みです。

🏠 インテリア事業 🚗 自動車内装事業 🚗 車両内装事業 🧰 機能資材事業 🎨 美術工芸織物

中国



① 住江互太 (広州) 汽車繊維製品有限公司



② 蘇州住江小出汽車用品有限公司



③ 蘇州住江織物有限公司



④ 住江織物商貿 (上海) 有限公司

インド



⑤ Suminoe Teijin Techno Krishna India Pvt. Ltd.

従業員数(グループ全体)

2,724人

グループ会社

27社

資本金

95億円

海外拠点

7カ国 14拠点

自己資本比率

33.5%

海外売上高比率

29.1%

ベトナム



⑥ Suminoe Textile Vietnam Co., Ltd.

タイ



⑦ Suminoe Koide (Thailand) Co., Ltd.



⑧ T.C.H. Suminoe Co., Ltd.

インドネシア



⑨ PT. Sinar Suminoe Indonesia



⑩ PT. Suminoe Surya Techno

アメリカ



⑪ Suminoe Textile of America Corporation (C.A. Design)



⑫ Suminoe Textile of America Corporation



⑬ Bondtex, Inc.

メキシコ



⑭ Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.

住江織物(株)の事業所

- ① 本社 (大阪市)
- ② 東京支店 (東京都)
- ③ 奈良事業所 (奈良県生駒郡)
- ④ 滋賀事業所 (滋賀県甲賀市)
- ⑤ 京都美術工芸所 (京都市)
- ⑥ 札幌営業所 (札幌市)
- ⑦ 東関東営業所 (埼玉県和光市)
- ⑧ 西関東営業所 (神奈川県伊勢原市)
- ⑨ 名古屋営業所 (名古屋市)
- ⑩ 広島営業所 (広島市)
- ⑪ 福岡営業所 (福岡市)

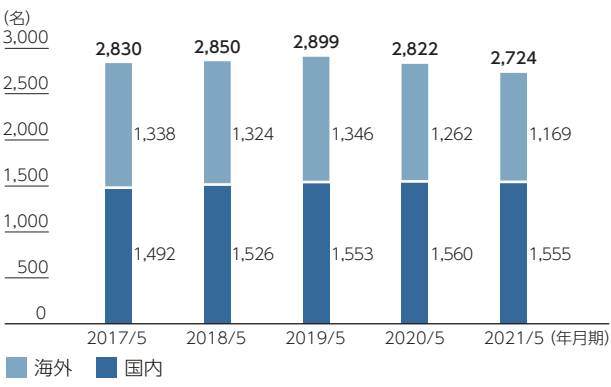
主要国内グループ会社(本社)

- ① (株) スミノエ (大阪市) 🏠
カーペット、カーテンを中心としたインテリア製品の企画・販売
- ② ルノン (株) (東京都) 🏠
壁紙を中心としたインテリア製品の企画・販売
- ③ 住江物流 (株) (奈良県生駒郡) 🏠🚗
製品の保管・荷役・加工・配送手配
- ④ (株) スミノエワークス (東京都) 🏠
インテリア製品の施工
- ⑤ 関西ラボラトリー (株) (大阪府松原市)
試験・検査業務
- ⑥ スミノエ テイジン テクノ (株) (大阪市) 🚗
シート表皮材を中心とした自動車内装材の製造・販売
- ⑦ 丸中装米 (株) (大阪市) 🚗
車両内装材の卸売業
- ⑧ 住江テクノ (株) 🏠🚗🧰
カーペットの製造・加工、長繊維紡糸 (リサイクル含む) およびニードルパンチカーペットの製造・加工
滋賀工場 (滋賀県甲賀市) 奈良工場 (奈良県生駒郡)
- ⑨ 丹後テクスタイル (株) (京都府京丹後市) 🏠🧰
絨帳、織通、ラグマットの製造・販売
- ⑩ 帝人テクロス (株) (愛知県稲沢市) 🚗
自動車用シート表皮材、椅子張地、衣料用生地等の製造・販売
- ⑪ 尾張整染 (株) 🚗🧰
自動車用シート表皮材、インテリア用生地の色調整加工
本社 (愛知県一宮市) 石川工場 (石川県能美市)
- ⑫ (株) ソーイング兵庫 (兵庫県丹波市) 🏠
ファブリック製品の縫製加工
- ⑬ インテック (株) (大阪市)
試験機器・測定器の開発・設計・販売
- ⑭ (株) シーピーオー (東京都) 🏠
内装設計・デザイン、施工および監理業
特注家具製作販売

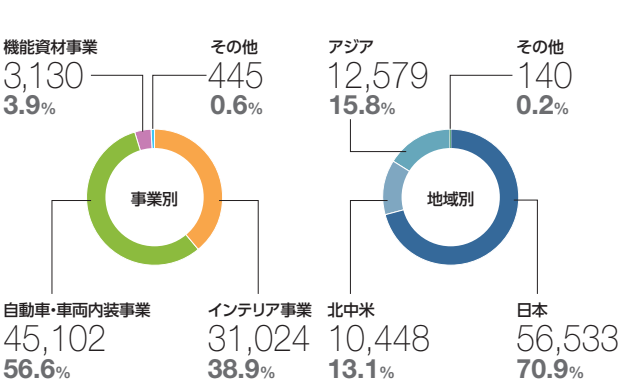
会社概要 (2021年5月31日現在)

会社名	住江織物株式会社 Suminoe Textile Co., Ltd.
本社所在地	〒542-8504 大阪市中央区南船場三丁目11番20号
創業	1883年(明治16年)
合資会社創立	1913年(大正2年12月25日) 住江織物合資会社
株式会社設立	1930年(昭和5年12月26日) 住江織物株式会社
資本金	95億5千4百万円
従業員数	253名(連結グループ2,724名)

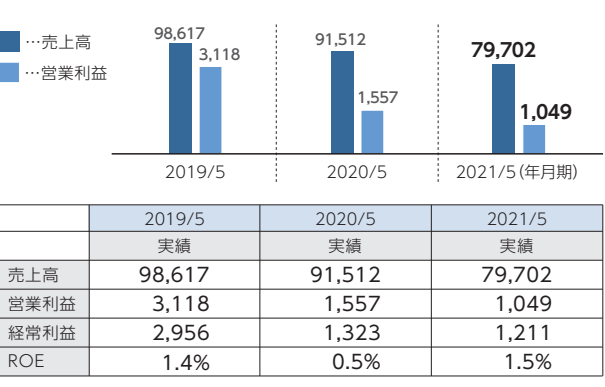
グループ人員の推移



売上高構成比 (2021年5月期)



連結業績



住江織物グループの持続的な成長と
サステナブルな社会への貢献の
両立を目指します。

はじめに

このたび、代表取締役社長に就任いたしました永田鉄平でございます。新型コロナウイルス感染症により亡くなられた方々に謹んでお悔やみ申しあげますとともに、罹患された方々とそのご家族や、生活に影響を受けている方々に心よりお見舞い申し上げます。

中長期経営目標達成への取り組み

住江織物グループはポストコロナを見据え、次なる成長ステージへと踏み出すため、2021年6月から始まる中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」を発表いたしました。当経営目標では、6年間の財務・非財務目標を定めるとともに、3年間の連結収支計画を策定しております。当社グループがこれまでも推し進めてきたESG経営をさらに強化しつつ、健全な利益を着実に上げ、サステナブルな社会に貢献する企業になるべく、次のことを実行してまいります。

売上拡大、成長への基盤づくり

永年培ってきた環境対応技術のさらなる推進、技術革新による独自の加工技術や他社の追随を許さない製品の開発を強化します。

財務体質の改善

DEレシオを2024年5月期までに0.5倍程度にし、企業価値の向上につなげます。

社員の幸せにつながる職場づくり

目の前の業務を遂行するだけでなく、広い視野で改革・

成長できる人材を育成します。同時に、安全・安心な職場環境を整備し、多様な働き方に対応できる勤務制度を確立します。

会社と社員のビジョンの共有

グループ一丸となって同じビジョンに突き進むため、経営・社員のコミュニケーションを潤滑にし、より風通しのよい組織を目指します。

CO₂排出量のさらなる削減

商材では、水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」の拡販や、後染め糸から原液着色糸への転換、リサイクル糸の使用量拡大などを通して、CO₂排出量の削減に取り組みます。また事業活動においても、物流の改善や生産拠点の一元化をすることで、貢献します。

ガバナンスの強化

これまでの取り組みをさらに推進し、法令・企業倫理を遵守し社会から信頼される企業を目指します。

これまで当社グループを取り巻く環境は幾度となく変化してきましたが、その都度対応し、成長してまいりました。先行き不透明なコロナ禍においても引き続き企業価値を高め、サステナブルな脱炭素社会への貢献を目指し、全力で取り組んでまいります。

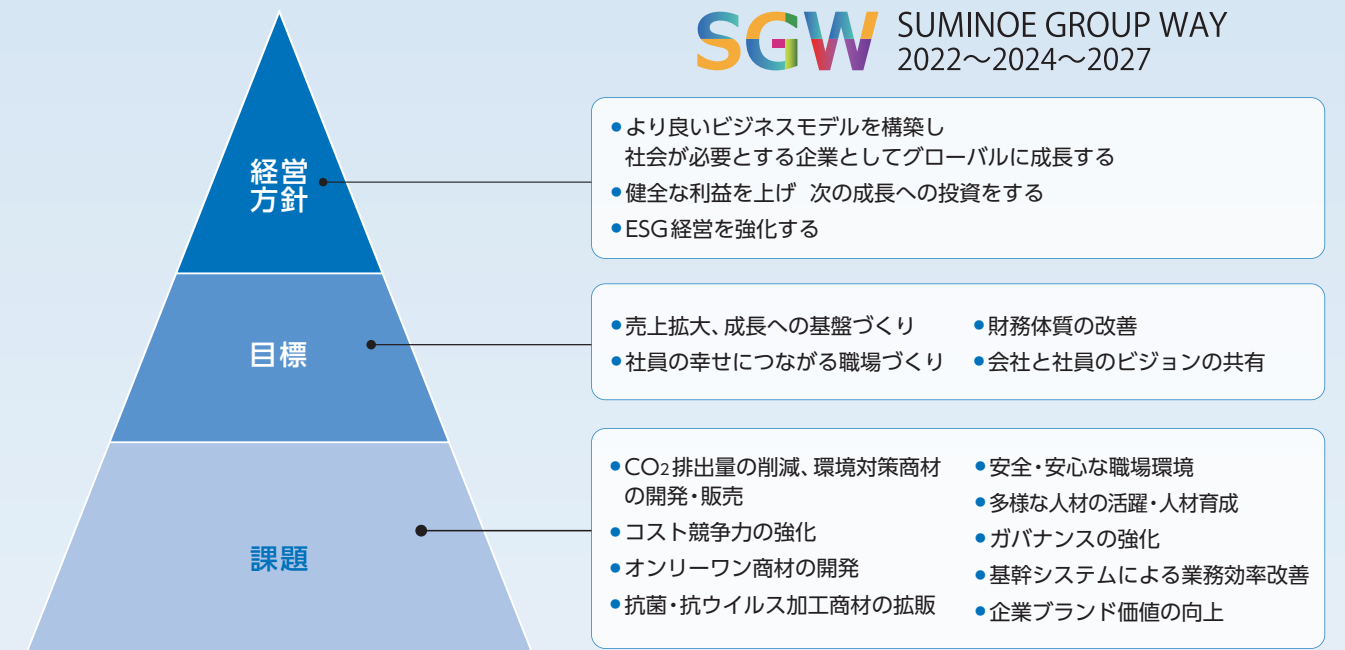
2021年12月

住江織物株式会社
代表取締役社長

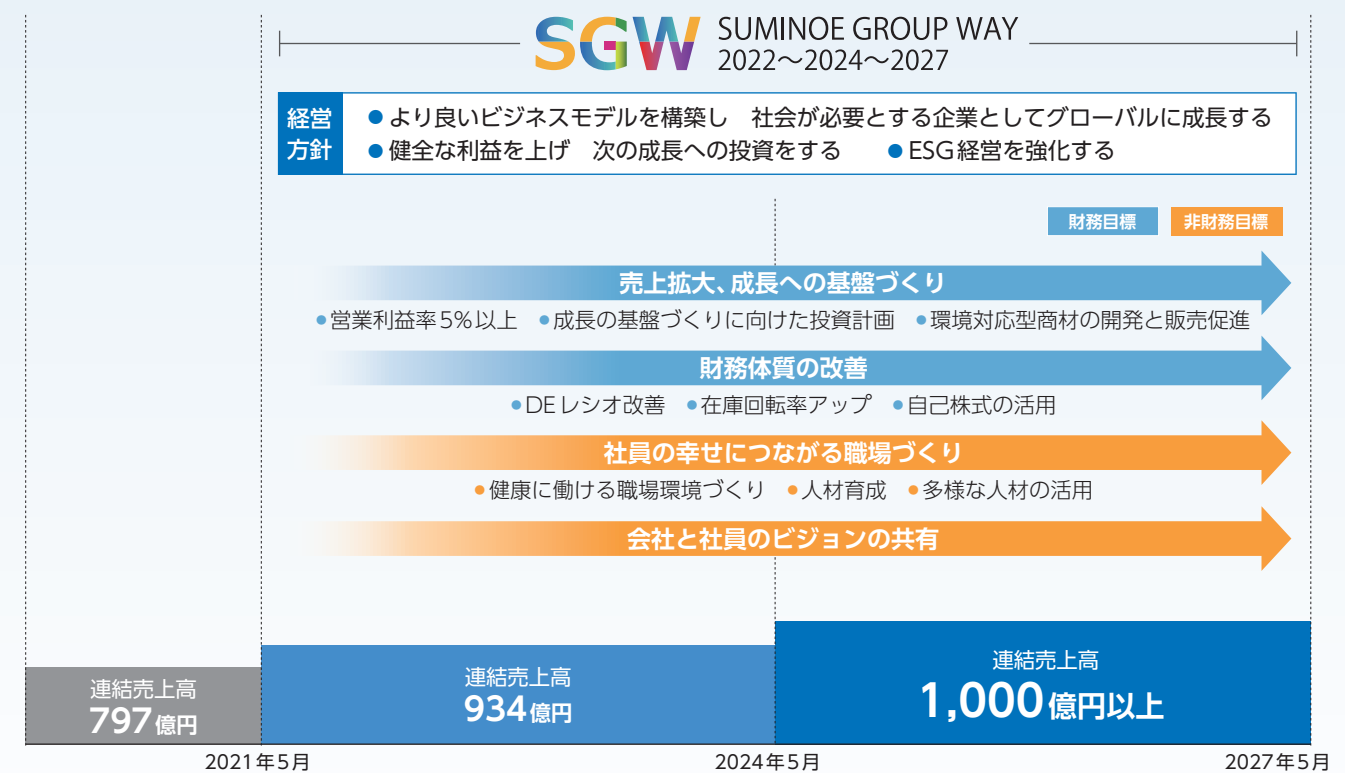
永田鉄平

中長期的な「ありたい姿」を見据え、 2027年5月期までの方針を定めました。

2021年6月から開始する中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」を策定しました。これまで当社グループが取り組んできたESG経営のもと、社会のニーズに応える商材の拡販とグローバル経営を推進し、グループ社員全員の力を合わせて、この中長期経営目標に取り組んでまいります。



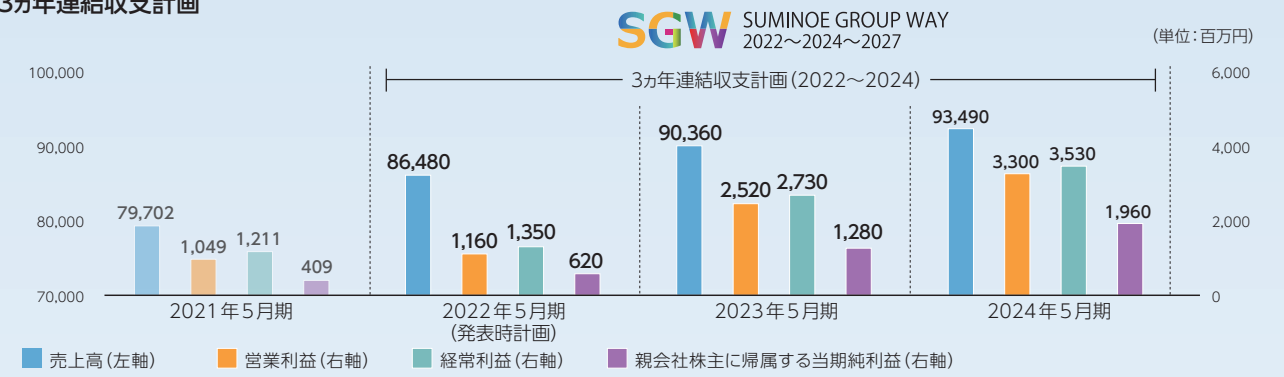
SUMINOE GROUP WAYの方針



3ヵ年連結計画(2022年5月期～2024年5月期)概要

当社グループは、ESG経営を念頭に置き、各事業セグメントにおいて、脱炭素社会に貢献する商材および抗菌・抗ウイルス機能加工商材の開発・拡販を進めます。また、基幹システムの再構築により経営基盤を強化すると同時に事業所の再編を進めることで、生産性・競争力向上を図り、さらなる効率化を目指します。

3ヵ年連結収支計画



セグメント別数値目標

		実績	3ヵ年連結収支計画(2022～2024)			
		2021年5月期	2022年5月期 (発表時計画)	2023年5月期	2024年5月期	
インテリア事業	売上高	31,024	33,750	34,430	35,120	
	営業利益	579	400	450	520	
自動車・車両内装事業	売上高	45,102	48,980	51,910	54,170	
	営業利益	2,102	2,800	3,590	4,170	
機能資材事業	売上高	3,130	3,410	3,680	3,840	
	営業利益	△87	△140	150	190	

投資計画

2022年5月期～2024年5月期の3ヵ年で、事業拡大と基幹システムの再構築および事業所再編に向け、総額100億円の投資を行う予定です。

ESGの取り組み

Environment (環境)

CO2排出量削減への取り組み

1990年に「スミトロン®」を開発して以来、当社グループ製品によるCO2排出量の削減に取り組んできました。2021年6月、CO2排出量削減と環境負荷低減をさらに強化するため、CO2削減見える化委員会を発足しました。

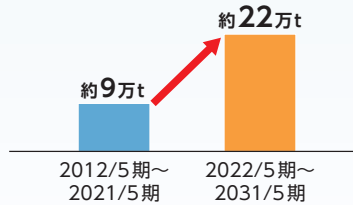
製品でのCO2排出削減貢献量

- タイルカーペットの循環型リサイクル
- 「スミトロン®」等再生糸の使用量拡大
- 再生PET綿・再生樹脂材の使用量拡大

事業活動でのCO2排出量の削減

- 物流改善、生産拠点の一元化
- エネルギー効率向上と使用燃料の変更
- 働き方改革

水平循環型
リサイクルタイルカーペット「ECOS®」
10年間のCO2排出削減貢献量



環境対応型商材の開発

「K(健康)K(環境)R(リサイクル)+A(アメニティ:快適さ)」の開発理念をベースとした研究開発をさらに加速させ、脱炭素社会に貢献します。

CO2削減に貢献する環境対応型商材の例

水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」

- 2011年発売
- 業界トップクラスの再生材比率最大84%、CO2削減率最大43%を達成
- これまでの10年間で約9万tのCO2を削減
- 次の10年間で約22万tの削減を目指す



「スミトロン®」

- ペットボトルの再生ポリエステルチップを50%以上使用
- 耐候・耐熱性に優れているため長期使用が可能
- 環境負荷が少ない原液着色方式



原液着色糸への転換

従来、カーペット表面のバйл糸の染色は、染色処理に伴う排水処理が必須で、大量の水・電力を使用する「後染め」方式で行ってきました。現在、排水の問題がなく、水・エネルギーの削減からCO2排出量も少ない「原液着色糸(紡糸段階で顔料による着色を施した糸)」の使用に転換しています。

Social (社会)

社員への取り組み

- 安全・安心な職場環境の整備
- ダイバーシティ&インクルージョン
- 人材育成、人材活用
- 全方向コミュニケーション

社会貢献活動

- 災害時における貢献
- 貧困・飢餓への支援寄付

Governance (ガバナンス)

- 基幹システムの再構築
- 社外取締役による経営の意思決定の強化
- 歩き回る経営による双方向コミュニケーション
- コンプライアンス研修の継続実施
- 「企業倫理ホットライン」のさらなる周知
- グローバル・リスクマネジメントの強化
- BCP行動計画

当目標期間に強化する取り組み

奈良事業所再編

事業所内の配置再編・効率化および住江織物テクニカルセンターと住江テクノ(株)開発チームの連携強化を目指し、奈良事業所の再編を進めています。



不要な生産設備の売却や生産設備の集中による「生産能率向上」、物流倉庫の増築や外部倉庫費の削減による「サプライチェーン効率化」、研究開発棟の新設が生み出す、事業部間のシナジー効果の向上や新製品開発のスピードアップによる「研究開発強化」、染色設備や排水処理場の撤去による「環境負荷低減」などの効果を見込んでいます。

スペース デザイン ビジネスの強化

「面」を彩る製品の製造販売・提案にとどまらず、「空間」全体の設計・デザインにも事業領域を拡大し、お客様のご要望をさらに高いレベルで具現化していきます。



店舗設計に関する深い知見と卓越した施工ノウハウを持つ(株)シーピーオーが2020年に当社グループに加わって以降、徐々に相乗効果が出てきています。今後、シーピーオーが得意とする店舗のほか、保育園・学校、医療施設へと事業領域を拡大していきます。



住江織物グループ
永田 鉄平

コモンズ投信(株)
シブサワ・アンド・カンパニー(株)
渋澤 健氏

撮影場所: ホテルニューオータニ大阪 ホワイエ
住江織物のカーペットを採用いただいています。

対談

ラストワンタッチを支える住江織物

創業から138年、住江織物が社会に生み出してきた価値とは何か。持続可能性(サステナビリティ)が全世界のテーマとなっている今、ステークホルダーへの責任を果たすために企業はどうあるべきか——。コモンズ投信(株) 創業者兼取締役会長、シブサワ・アンド・カンパニー(株) 代表取締役であり、渋沢栄一の玄孫としても知られる渋澤健氏と当社代表取締役社長の永田鉄平が語り合いました。

住江織物が生み出してきた価値とは

渋澤 住江織物というとなす思い浮かぶのはカーペットですが、実は鉄道やバス、船舶など様々な乗り物の内装材も手がけられている。今日、私は新幹線で東京から来たのですが、車内でも御社のお世話になっていたわけですね。

永田 ええ、現在では飛行機も含めてほとんどの交通機関に当社製品が使われています。もともとは日本で初めて手織りの緞通(カーペット)を作った会社で、創業は明治16(1883)年。ちょうど渋沢栄一氏がご活躍の頃ですね。

渋澤 日本で初めて銀行を立ち上げた渋沢栄一と同じく、当時のスタートアップ企業だったわけですね。スタートアップとしての存在感を伝えるために栄一はお金や人などの資本を「しずく」に例えています。一滴一滴は小さなしずくでも、たくさん集まればやがて大きな川となり、新しい社会を作る力になれる。彼は「日本資本主義の父」と言われていますが、本人はこれを「合本主義」と呼んでいました。

永田 なるほど。「資本を合わせる」という意味なのですね。

渋澤 そうなんです。渋沢栄一の有名な「論語と算盤」は、一見合いそうもない論語(道徳)と算盤(利益)を合わせることで、新しい価値を生みだそうという考えですが、彼には

「あれかこれか」の「か(or)」ではなく「あれとこれ」の「と(and)」という基本姿勢があったと思います。「か」は、物事を選別して効率を高めるので分析や組織運営には不可欠です。ただ、それだけだと新しい創造(クリエーション)はできない。「か」で分断してしまうと、それ以上の化学反応が起きないからです。一方「と」は、「論語」と「算盤」のように一見矛盾していることや相反しているものを結びつけることで、新しい価値を生み出す可能性をもっています。この発想は、日本の技術と西洋文化の融合から生み出された「カーペット」にも通じるのではないですか？

永田 確かにそうですね。明治期の日本は、西洋に追いつこうと様々なものを洋風化しました。カーペットもまさにその一つです。早くからこの分野に事業展開した当社は、帝国議会議事堂や迎賓館などで使われる高級絨毯の製造を任せられる一方、全国に普及が進む鉄道や船舶などの乗り物に使われる敷物やシート地などの内装品にも進出しました。明治半ばに大阪市電が敷設される際、大阪市の紋章である「みおつくし」の模様を織り込んだシート地を納めたところ、他地域から要望が殺到して「紋章入りシート地」が全国に流行したというエピソードもあります。

渋澤 その後は自動車の内装分野などにもいち早く進出

されていますね。

永田 ええ、自動車分野は戦前の1931年にゼネラルモーターズやフォードに、シート地やフロア材などを納めたのが始まりです。さらに戦後の高度経済成長期にはアメリカから専用機械を輸入してカーペットの量産を開始し、高級品だったカーペットの一般家庭への普及にも寄与しました。

渋澤 培った技術を活かしながら時代の流れやニーズに合わせて自社の強みを発揮できる分野を着実に増やして、事業領域を広げてきたわけですね。

時代を先取りした環境への取り組み

渋澤 時代の流れということ言えば、日本政府は昨年「2050年までに温室効果ガスの排出を全体でゼロにする」というカーボンニュートラルの政策を打ち出し、民間企業にもCO₂削減をはじめ環境への取り組みがますます強く求められています。そのあたりの取り組み状況はいかがですか？

永田 実は当社では約30年前に「これからは環境の時代だ」と考えて、地球環境に配慮した製品づくりを開始しているんですね。

渋澤 それはすごい。環境への意識というのは何がきっかけだったのですか？

永田 当時、飲料容器として「ペットボトル」の普及が急速に進んだのですが、その一方で廃棄ペットボトルによる環境汚染が社会問題になりはじめました。そこで当社はポリエステル糸を引く機械を購入し、ペットボトルのリサイクルチップを使った再生糸「スミトロン®」を1990年に開発してカーペットの表面糸に使用したのです。

渋澤 90年と言えばバブル経済がピークの時。世の中がイケイケどんどんで浮かれていた時代にかなり先を読んだ戦略を実践していたのですね。明治初期に初めてカーペットを作ったように、御社には新しいことに積極的にチャレンジする社風が受け継がれているのでしょうか。

永田 場合によっては少々早すぎるころもあるんですが(笑)。「スミトロン®」の開発後も1998年には「K(健康)K(環境)R(リサイクル)+A(アメニティ:快適さ)」を会社の開発理念として制定しました。私たちの事業領域である住空間、オフィス、ホテル、交通機関などの内装はどれも人と接するものなので、快適さだけでなく、健康にも環境にもよいものであるべきだと考えたのです。

渋澤 様々な要件を満たしていこうとすると、技術開発もより大変になりそうですね。

永田 そうなんです。最も大きな挑戦は「塩ビのリサイクル」でした。オフィスなどで使われるタイルカーペットの裏側には、塩化ビニルが使用されており、これまで埋め立て処分しか廃棄方法がありませんでした。そこで当社はこれをリサイクルできないかと考え、苦労の末、2011年に技術開発に成功しました。これは使用済みタイルカーペットを再生チップにして原料に使うもので、現在の再生材比率は最大84%に達しています。

渋澤 循環型のリサイクルなのですね。日本の埋め立て地のキャパシティが限界に近くなっているなか、使用済みカーペットのリサイクルによって廃棄物削減に貢献しているわけですね。これにはCO₂排出量を抑える効果もあるのでは？

永田 おっしゃる通りです。リサイクルから生産まで一貫して行っているため原料輸送時のCO₂排出が少なく、製造工程も簡略化できるためカーペット1万㎡分でCO₂が40~50t削減できます。リサイクル品が普及すればするほどCO₂排出量を抑えられ、気候変動問題への貢献につながると考えています。またカーペットの表面についても環境に配慮して2020年から「染色」を止めています。

渋澤 「染色を止める」?というのは、どういうことですか？

永田 従来は織り上げた白地のカーペットを各色に染めていたのですが、これを織る前の糸自体に着色する方法に変更したのです。これによって製造工程でのエネルギー消費が減っただけでなく排水を綺麗にするためのエネルギーも削減できました。

渋澤 なるほど。現在も色々なテーマに取り組んでいるのですね。

永田 ええ。「漁業用ナイロン網のリサイクル」というプロジェクトも進めています。ナイロン網は生分解されないのが海に流出すると生態系や環境に悪影響を及ぼします。これを回収してもう一度糸にする取り組みを協業企業や北海道の漁港組合の方々と協力して進めており、既に鞆や



ペンケースなどを作り始めています(→P46)。これが漁網をリサイクルした糸で作ったバッグです。

渋澤 おしゃれですね! 漁網だったと言われなければ分かりませんね。

サステナブルな未来を見据えた成長戦略

渋澤 渋沢栄一の「論語と算盤」というのは、今の言葉で言い換えると「サステナビリティ」だと思うんですね。事業というものは「算盤勘定」なしには持続できませんが、自分の算盤(利益)だけを見ているような事業は長続きしない。そこに「道徳」があるからこそ、算盤が永続的に回り続ける。その意味で「道徳」は、栄一にとって「譲れないもの」だったと私は考えているのですが、御社にとっての「譲れないもの」とは何でしょうか？

永田 人に接する部分なので、やはり「快適性」というものが根本にありますね。カーペットでは踏み心地や汚れにくさだったり。車のシートでは座り心地に加え、蒸れにくさという機能性もあります。人にやさしくというのがファブリックの根本ですね。

渋澤 御社はいわゆる「100年企業」の部類に入ると思いますが、100年企業というのは100年間同じことをやっているわけではなく、伝統や古い貴重な技術を守りつつ、常に時代の変化に応じてどんどん進化することで生き残ってきた企業ですね。お話を伺っていると、伝統的な製品に新しい価値を付加していくことが成長の原動力になってい

ると感じます。現在はどんな変化や進化をしていますか？

永田 一つは「空間ビジネス」です。オフィスのフリーアドレス化のように、今後の社会では空間そのもののあり方が変わっていくと思います。当社は今までカーペットや壁紙など「面」を彩る製品を作ってきたわけですが、そこにとどまらず、空間全体の設計・デザインにも事業領域を拡大しています。現在は商業施設の店舗がビジネスの中心ですが、ゆくゆくはホテルやオフィスなどにも事業を展開していくつもりです。

渋澤 「空間」というのは人の感性や、エモーショナルな部分を刺激しますよね。人間は最終的にはアナログ的な感性の塊だと私は思っています。デジタル社会は情報を伝達する上では効率性を高めますが、ラストワンタッチと言いますか、最後はアナログじゃないかと。デジタル化が進んだ社会になればなるほど「空間」がより大切になっていく気がします。

永田 自動車の車内空間などもさらに変わっていく可能性がありますね。ボタンを押せば勝手に目的地まで行くような完全な「自動運転」が実現すれば、自動車の中も高級ホテルのようなゴージャスな空間になるかもしれない。当社では住空間・商業空間・移動空間など、空間ごとに異なったアプローチで「快適さ」を提供してきました。そこで培った技術と知見を持ち寄るかたちで新たなカーインテリアのデザインを探索するプロジェクトを推進中です。

渋澤 確かに完全自動運転の世界になれば、皆が前を向いて座る必要もないですからね。インテリアと自動車内装の両方を手がける御社だからこそできる事業ではないかと思っています。

「見えない価値」の可視化

渋澤 今まで伺ってきた御社の様々な取り組みは、事業戦略であると同時にESG(環境・社会・ガバナンス)と呼ばれるような、いわゆる非財務面の活動も含んでいたと思います。今後の企業成長に向けて非財務面で特に重視している要素は何でしょうか？

永田 企業価値の向上を目指すなかで、やはり「人材」は非常に重要な位置づけにあると思います。毎年策定しているCSR計画でも人材を重要課題に定めていますし、今年発表した「中長期経営目標」(→P6)でも従業員に関する項目を

設定し、よりよい職場環境の実現や人材育成に今まで以上に注力していく方針を打ち出しています。

渋澤 会社には可視化できる財務的価値と可視化できない非財務的価値があり、財務的価値はあくまでも氷山の一角であって、その下に見えていない部分が非財務的価値だと私は考えています。「人」はこの非財務的価値に含まれます。企業は「人」がいるからこそ未来すなわち「これからの価値」を作ることができる。その意味で企業は「どういう価値を生み出し、提供していくのか」を表現する際に「こういう人材がいるからできるんだ」と、人的リソースを前面に出すことも意識すべきだと思うんですね。

永田 なるほど。そういう部分が見えていると投資家の方々にもきっと評価いただけますよね。

渋澤 そう、通常は見えにくい部分の価値をきちんと見せられると「だからこの会社には将来性がある」という評価につながる。ただそういう「見えない価値」というのは数値化が難しいんですね。

永田 確かに当社も「伝統」や、製品の品質を担保する「従業員」や「ノウハウ」について数値で見える化せよと言われると、どうしたらいいんだ?と困ってしまいますね。

渋澤 これは以前から私も投資家として悩んでいたことでした。ただ最近、そこに必ずしも正しい数値を出す必要はなくて、「見えなかった価値を可視化するためにはどうすればいいのか?」と取り組む姿勢そのものが、企業にとって重要なんじゃないかと考えるようになりました。そうすることで自社の新たな課題に気づく可能性もあると思うんですね。

永田 なるほど。そこを真剣に考え抜くことで、当社も色々なものが見えてくる気がします。

なくなっては困る製品=社会が求めている価値

渋澤 実は、そうした情報を一番知ってもらうべきは、従業員の家族ではないかと私は思っています。自分がどんな会社で働いているのかを家族に理解してもらうことは、従業員自身とその家族の双方にとってとても大事です。従業員が快適に働き続けられることで、会社は持続的に価値を生み出し続けられる。結果的にそれが株主や投資家のためにもなるわけです。

永田 その訴求方法の一つが、たとえばこのCSRレポート



であるということですね。

渋澤 投資家目線でもう少し言わせていただくと「事業環境の変化にきちんと適応し続けてきた」ことは、御社の重要な訴求ポイントだと思います。また今回の対談を機に私も御社製品に至るところでお世話になっていることに気づきましたが「なくなっては困る製品=社会が求めている価値」を、持続的に提供している企業であることも、より強く訴求していくべきではないかと思いますね。

永田 アドバイスありがとうございます。見えづらい非財務的価値を可視化して、さらに高めていく努力が、結果的に財務的価値の向上と企業全体の価値の向上につながっていくということですね。これからもステークホルダーのみなさまにご理解いただける、適切な情報開示の方法を模索していこうと思います。本日はありがとうございました。

渋澤 健氏 プロフィール

シブサワ・アンド・カンパニー(株)代表取締役、コモンズ投信(株)取締役会長・創業者。1987年、UCLAでMBA取得。米ヘッジファンドの日本代表などを経て、2001年にシブサワ・アンド・カンパニー(株)を創業。2007年、コモンズ(株)(現コモンズ投信(株))を設立し、2008年に会長に就任。

U.S.A.

グローバル展開

海外事業所紹介: Bondtex, Inc.

自動車内装事業では、海外6ヵ国12拠点に製造・販売拠点をもち、自動車内装材全般を供給しています。お客様のニーズに応えるため、日本で培ったモノづくりと管理のノウハウを各拠点へ展開し、迅速かつ安定的に当社商品を納入しています。また、各拠点において、地域の経済発展と雇用促進にも貢献しています。

Bondtex, Inc. について

1986年にサウスカロライナ州で設立された同社は、医療用、インテリア用、自動車用のフレームラミネート加工を中心に事業活動を行っています。2015年より住江織物グループの一員となり、これまでのローカル企業としての立場からグローバル企業の一員としての役割を全うすべく日々研鑽を重ねています。昨年には新しいフレームラミネート加工機が導入され、品質向上、競争力の向上を背景に常に新たなビジネスの獲得を目指し日々活動しています。



グリーンビル地区

■■■

Bondtex, Inc. の周辺環境

Bondtex, Inc.があるグリーンビル地区は、かつて繊維産業の拠点として繁栄を誇っていましたが、1970年代後半より繊維産業の衰退とともに年々人口が減少しました。しかし、欧州の大手自動車メーカー北米工場がこのエリアに進出を決めたことをきっかけに、多くの企業が再びこの地に拠点を構えるようになりました。多くの欧州人がこのエリアに移住したことで土地や建物の価格が上昇しましたが、この地区にはそれを上回る魅力があります。気候に関して言えば、春と秋がそれぞれ2週間ほど短いこと以外は日本とさほど変わりなく、住みやすい環境です。また、当地に長く住まう人々を表す言葉として“Southern Hospitality”があります。人懐こくて優しく穏やかな人が多いという意味で、住んでいるとそれを肌で感じる機会が多くあります。このほかにも教育制度が充実していることもあり、今では全米「住みたい街ランキング」において常に上位に入るほどの人気地区となっています。

■■■

社会貢献活動

地元の高校であるDorman High School “Bass Fishing Club”と少年少女サッカーアカデミー“Spartanburg

United Soccer Academy”へのスポンサー活動をすることで、子供たちの発育と健康増進に寄与しています。また、全米各地の小児病院で治療を受ける難病患者に対して治療費などのサポートを行うChildren’s Miracle Networkへの寄付や、不慮の事故などの影響で就労が困難な人・生活保護対象者などに昼食の提供を行うMobile Meals of Spartanburg (生活保護支援団体)への資金援助も行っています。

■■■

新型コロナウイルス感染症拡大の影響と対策

Bondtex, Inc.の従業員からも、このエリアに住む人々の特長である信心深さが関係して、週末に訪れる教会などで感染するケースや週末に自宅などで家族や仲間と集う機会に感染するケースが多くみられました。しかし、就業時のマスク着用義務、共用部(食堂・トイレ・扉)の消毒、エアコンフィルターの交換、消毒液の完備など様々な対策を継続的に実施することで、社内クラスターの発生を防止することができています。また、アメリカでは、4月初めに政府が打ち出した12歳以上の全国民を対象とするワクチン接種が普及したため、Bondtex, Inc.では4月以降、新規感染者数が劇的に減少しています。

ワクチン効果(3回目接種含む)を期待しつつ、今後もこれまでの対策を維持し、新規感染者数ゼロを目指します。



Dorman High School バスフィッシングクラブ



Spartanburg United Soccer Academy



「グリア」のダウントウン
60年以上前の建物がリノベーションされ、レストランや地ビール工場などが立ち並び Bondtex, Inc. の隣町

野田 嘉彦 1990年入社



写真の左から野田、マーク取締役、ベス工場長

2014年1月にSTA(Suminoe Textile of America)へ赴任後、アメリカ滞在が8年目となりました。Bondtex, Inc.では2019年より勤務を開始し全体を統括しています。これまでの赴任期間で特に印象的だったことは、国内には4つのタイムゾーンが存在するなど、とにかく国が広いことです。現在、私が住む東海岸からテネシー州やテキサス州に出かけると-1時間、西海岸ともなれば-3時間の時差を克服しなければならず、体の負担になることもあります。このように広大かつ豊かな国土を持つアメリカは、出生率が右肩上がり、今後も安定した消費経済が社会を支えていくと言われています。新型コロナウイルス感染症の影響で、一部の生活習慣が変わってきていますが、変化に乗り遅れないよう注意しながら今後の赴任期間で未来への布石を打っていきたいと思います。

事業セグメント別概況・成長戦略

自動車内装事業

・住江織物(株)、スミノエ テイジン テクノ(株)、帝人テクロス(株)、尾張整染(株)、住江テクノ(株)、Suminoe Textile of America Corporation、Bondtex, Inc., Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.、住江互太(広州) 汽車纖維製品有限公司、蘇州住江小出汽車用品有限公司、住江織物商貿(上海)有限公司、T.C.H. Suminoe Co., Ltd., Suminoe Koide (Thailand) Co., Ltd., PT. Sinar Suminoe Indonesia, PT. Suminoe Surya Techno, Suminoe Teijin Techno Krishna India Pvt. Ltd.

自動車内装材の世界最適供給体制を構築

事業の概要

天井材、シート表皮材、カーマット、フロアカーペットなど、足元から天井まで自動車内装材をトータルで供給できるのが当社の最大の特長です。日本国内だけでなく、米国、メキシコ、中国、タイ、インドネシア、インドの海外6ヵ国12拠点に製造・販売拠点があり、世界最適供給体制を構築しています。

強み

- ① 自動車内装材のトータルサプライヤーとしての提案力
- ② グローバルな生産拠点による最適地生産
- ③ 新素材や従来の繊維製品の領域を拡大する開発力
- ④ 繊維への高度な加工技術と企画・デザイン力
- ⑤ インテリア事業と自動車内装事業の融合による総合力

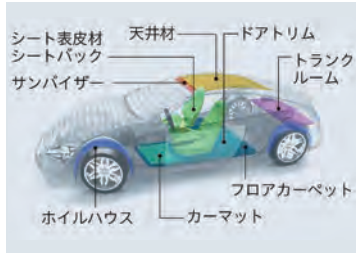
外部環境

- ① 国内生産台数減少
- ② CASE、EV新興メーカーの台頭
- ③ 環境、騒音対策の高まり
- ④ 価格競争の激化

成長戦略

- ① 環境商材の開発・販売促進・活用
- ② 次世代自動車内装の開発
- ③ 最適調達による原価低減
- ④ 新規部位・少工数生産をキーワードとした開発
- ⑤ 海外への横展開
- ⑥ 新工法によるファブリック素材の開発
- ⑦ グローバル各拠点の情勢・課題に沿った開発展開

主要取り扱い製品



シート表皮材



フロアカーペット



カーマット

Topics

意匠性と環境配慮を両立したファブリック加工技術でデニム調「エコローレ™」の開発に成功



エコローレで加工した布帛



エコローレ加工設備



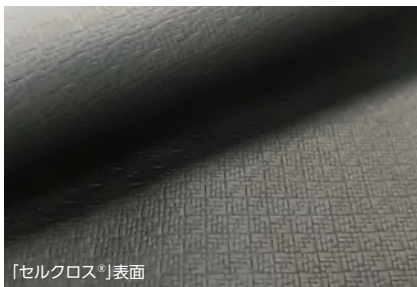
当社グループの「エコローレ™」が、お客様からご好評をいただいています。「エコローレ™」とは、黒い原着糸※と生地糸を効果的に組織することで染色工程を削減しつつ、意匠性を向上させたファブリック加工技術です。染色工程で発生する廃液を大幅に抑えることで、環境に配慮しています。

今回お客様から、自動車のモデルチェンジに伴って、デニム生地などの天然素材をイメージした、環境にやさしいシート表皮材をご要望いただきました。本来のデニム生地は染色済みのタテ糸と無染色のヨコ糸を組成したもので、黒い原着糸と生地糸を組織する、環境にやさしい「エコローレ™」はまさに適した技術だったことから、デニム調「エコローレ™」の開発が始まりました。開発にあたり、お客様自身が

生地の本場である岡山に出向かれ、当社グループでも数多くのデニム生地を参考にしながら織筋1本に至るまで表現にこだわるなど、かなりリアルなデニム調表皮を追求しました。プリントとベースの柄だけの調整ではデニムの再現は難しく、大変苦労しましたが、無事にその課題を克服し、非常にリアリティのある商品化に成功しました。今後もこの天然素材調の意匠表現が可能な、環境に配慮した「エコローレ™」の提案を積極的に行っていきます。

※ 原着糸：原液着色糸の略。繊維の原料を熱などで溶かした段階で色素（顔料など）を加え、あらかじめ着色した糸のこと。

納入実績（価値創造の歩み）



北米市場向け新型日産ローグの表皮材に湿式合皮「セルクロス®」が採用

シート表皮材「セルクロス®」は、当社グループの合成皮革の開発で初めて自動車工業メーカーにご採用いただいたものであり、15年以上もの間、お客様からのご要望にお応えしています。当初は数多くあった技術的な問題を一つひとつ解決し、デザインも変更することで時代のニーズにあわせてきました。日本市場向けである先代・現行の日産エクストレイルに加え、今回の日産ローグにも採用となった湿式合皮「セルクロス®」は、当社グループ独自の湿式工法で製造されており、濡れた状態で座っても表面についた水滴を簡単にふき取ることができます。さらに、湿気を通す微細な気孔が開いているため長時間蒸れることなく快適な運転が可能です。また、従来までのデザインは単純なドット調の凹凸をつけた柄でしたが、今回はより繊細な柄を加えることで商品性を高めました。この機能性とデザイン性を、ご要望に応じてその都度、改良・融合させることで、当社グループとして新たな表現をご提供できる商材となっています。



スミノエ テイジン テクノ(株) 営業統括部 第2営業部

脇野 裕司

「セルクロス®」は“Cell-Cloth”の文字通り、表層に微細な気孔を持つCell構造体で、蒸れの発生を抑える透湿性と防水性を併せ持つ機能合皮です。意匠面では、西陣織柄をエンボス加工で表現し、“Japanese Identity”を感じさせるデザインとなっています。エンボス凹凸表現においてはシビアな要求があり苦労しましたが、加工調整を繰り返し、日産デザイン様の承認を受けました。機能面に加え意匠面でもお客様から高い評価をいただき、日本市場向けだけでなく、北米市場へも追加設定される運びとなりました。



スミノエ テイジン テクノ(株) 開発センター 合皮開発部

高山 裕子

今回採用された「セルクロス®」の意匠は、現行エクストレイルに搭載されているドット調の柄から、全面に細かいスリットが入ったより繊細な柄となって大きく印象が変わっています。そのため、「セルクロス®」の特徴である透湿性の確保を含め、繊細な意匠を表現するエンボス加工および表皮の物性確立が大きな課題でした。さらに、明色のグレー色仕様は防汚加工も要求されており、技術的課題も多く困難を極めました。課題を一つひとつクリアすることで、量産化に至ることができました。今後も、様々なニーズに応えられるよう尽力していきます。

事業セグメント別概況・成長戦略

インテリア事業：住江織物(株)、(株)スミノエ、ルノン(株)、住江物流(株)、(株)スミノエワークス、(株)ソーイング兵庫、丹後テクスタイル(株)、住江テクノ(株)、(株)シーピーオー

独自の技術開発力で、業界トップクラスの環境対応商品を創出

事業の概要

公共施設、ホテル、学校、病院、オフィスから、一般家庭に至るまで、デザイン性と機能性を備えたインテリア商品を幅広く提供しています。

また、K(健康)K(環境)R(リサイクル)+A(アメニティ・快適さ)のテーマのもと、環境にやさしい商品づくりに取り組んでいます。

強み

- ① 伝統技術の継承・保存(美術工芸品、緞帳・緞通)
- ② 著名物件納入の実績と信頼
- ③ MD・デザイン・販売の三位一体による顧客対応力
- ④ グループ間の情報共有による施主・設計への販促活動
- ⑤ 環境対策の理念に基づいた高付加価値商品の充実

外部環境

- ① 環境商材の需要の高まり
- ② 住宅着工件数の減少
- ③ 原材料価格の高騰による収益悪化リスク

成長戦略

- ① 環境対応型商材の拡充・拡販
- ② オーダーラグ販売の新業態立ち上げ
- ③ ハウジング向け商品の開発
- ④ 新規得意先の拡大
- ⑤ ブランドイメージの発信強化と浸透
- ⑥ 直営EC事業の強化

主要取り扱い製品



タイルカーペット



BERRY ALLOC® PURE LVT



緞帳



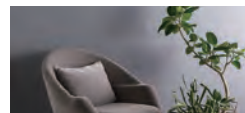
緞通

美術工芸品
コインパース・カードホルダー

ラグ・マット



カーテン



壁紙・襖紙

Topics

文化と芸術の拠点「アクリエひめじ」に
丹後テクスタイル(株)の綴織緞帳を納入



大ホール緞帳



中ホール緞帳

新施設「アクリエひめじ」が、文化と芸術の拠点として建設されました。その舞台ホールの緞帳デザインを姫路市出身の世界的デザイナー故高田賢三氏が寄贈され、当社が大・中ホールともに受注して納入しました。大ホールの緞帳は、静かに東の空が刻一刻と明るくなり、朝陽が白鷺城(姫路城)と大地を照らしていく情景を、芍薬の花のモチーフとともに表現しています。中ホールの緞帳は、夕刻の瞬、一日の労をねぎらうかのように、次第に太陽がゆっくりと西へ姿を隠していく夕映えの幻想的な光の中に浮かぶ白鷺城を、芍薬の花のモチーフとともに表現しています。その想いを緞帳で忠実に再現し、納入時には関係各所より高い評価をいただきました。

Topics

ルノン(株)の「空気を洗う壁紙® クラフト ライン」を
最新のインテリアシーンに合わせてアップデート

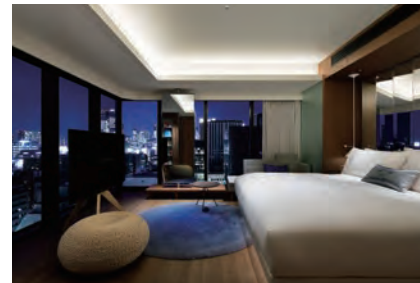


よこはま港南台地域包括ケア病院



医療施設や介護・福祉施設における壁紙は、設備としての機能性に加え、医療や介護を受ける人々の癒しや、従事する人々の働く意欲の向上といった心理的な複合要素が求められるインテリアエレメントです。「空気を洗う壁紙® クラフト ライン」は、発売以来幾度にわたり、最新のインテリアシーンにフィットするためのアップデートを実施しました。「トリプルフレッシュ®」による消臭機能性と意匠性の両立を追求し、満足度の高い居住空間と働く空間の創造を考えた商品づくりに努めています。さらに、人生100年時代と言われる現代社会では、在宅医療や介護が増加することから、一般住宅への提案にも取り組んでいます。

納入実績(価値創造の歩み)



日本初のWホテル「W大阪」に、別注ハンドタフテッドカーペットが多数採用

2021年3月に誕生した「W大阪」は、大阪市の中央を南北に結ぶメインストリート御堂筋に面するラグジュアリー・ライフスタイルホテルとして開業しました。世界的なホテルチェーンを展開しているマリオット・インターナショナルのブランドのなかで、今回の「W大阪」は、泊まるだけのホテルではない、クリエイティビティを解き放つ「大人の遊び場」をコンセプトとしています。従来のラグジュアリーホテルとは全く異なる、革新的でインスピレーションに富んだホテルの客室には、オリジナル柄のハンドタフテッドカーペットが採用されました。目にも鮮やかなピンクとブルーのグラデーションカーペットはそれぞれ日本の桜と海をイメージしています。高級品であるハンドタフテッドカーペットを、お客様からのデザイン・規格両面での細かな要望に的確かつスピーディーに対応し、製販一体でご提案できる当社グループならではの強みを活かした実績となりました。



(株)スミノエ
西日本支社
近畿ブロック
コントラクト3部1課

真瀬 和弘

「W大阪」の客室に、別注ハンドタフテッドカーペットが採用されました。海外のデザイナーとやり取りを繰り返して決定したカーペットは、ダイナミックなグラデーションに仕上がっており、利用客にも好評をいただいています。遊び心満載の客室は、カーペットだけではなく、その他のインテリアも個性豊かで洗練されたデザインとなっており、初めてモックアップルーム(実寸模型)の完成を目にした時、とても驚いたのを今でも覚えています。8月の猛暑で大変なカーペット工事となりましたが、日本初上陸のホテルの仕事に携われたことを非常に嬉しく思います。



(株)スミノエ
東日本支社
東京デザイン部

近森 恵里花

今回はオランダの海外デザイナーとのやり取りを通してデザインを進めました。美しいグラデーションをハンドタフテッドカーペットで表現するのはなかなか難しく、何度も試作を重ねた末にようやく採用に至りました。完成されたホテルに初めて足を踏み入れた時、今までの概念が根こそぎ覆されるような、革新的で遊び心溢れるデザインが随所に見られ、大変刺激を受けました。また、以前に留学していたオランダの「ダッチデザイン」に触れることができたこともあり、とても思い入れ深いプロジェクトとなりました。

事業セグメント別概況・成長戦略

車両内装事業：住江織物(株)、丸中装栄(株)、住江テクノ(株)

安全で快適な車両づくりへの貢献

事業の概要

JR、私鉄、公営交通に納入し、1世紀以上にわたリトップシェアを誇っています。

現在では、新幹線、電車、バス、船舶などの交通機関に、シート表皮材やカーテン、壁装材、床材に至るまで内装材をトータルで提案し、安全性・環境性に優れたシートクッション材「スミキューブ®」など環境にやさしい製品を納入しています。

強み

- 1 1世紀以上にわたる業界トップシェア
- 2 業界先駆者としての120年の実績と信頼
- 3 シート表皮材、カーテン、壁装材、床材など内装材のトータル提案が可能
- 4 安全性に優れた環境負荷低減製品（シートクッション材「スミキューブ®」）
- 5 全国に幅広い販売ネットワーク

外部環境

- 1 テレワーク浸透による通勤・出張の縮小
- 2 車両台数の減少
- 3 アフターコロナの旅行者拡大
- 4 MaaSの実用化
- 5 少子高齢化

成長戦略

- 1 回復が見込まれる改造・張替工事の受注拡大
- 2 新規商材の開発・拡販
- 3 環境にやさしいファブリックの開発
- 4 シェアの拡大
- 5 新触感スミキューブの提案・受注

主要取り扱い製品



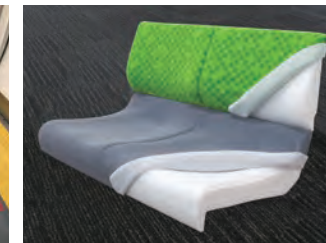
モケット、枕カバー、カーテン



カーペット



床表示フィルム



スミキューブ®, ニット

Topics

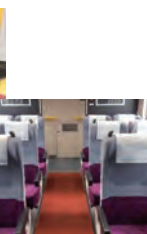
JR西日本の長距離列車「WEST EXPRESS 銀河」に当社の省エネ・省資源型商材「インクジェットプリントモケット」が採用



「気軽に鉄道の旅を楽しめる列車」をコンセプトとしたJR西日本の新たな長距離列車「WEST EXPRESS 銀河」が、2020年9月11日より運行を開始しました。この車両の内装材に、当社グループのタイルカーペットとカーテンに加え、シート表皮材「インクジェットプリントモケット」が採用されました。「インクジェット」は、デジタルプリント方式でプリントする省エネ・省資源型のシステムです。当社グループではこのインクジェットシステムを使い、その特徴である小ロット・多色を活かして、全国の鉄道車両やバスなどに幅広く展開をしています。

Topics

JR東日本E235系横須賀・総武快速線に当社の環境商材「スミキューブ®」が採用



JR東日本横須賀・総武快速線に導入する新型車両E235系が、2020年12月21日より運行を開始しました。普通車のシート表皮材にポリエステルのリサイクル糸を使用したニットを、車両座席クッション材に当社「スミキューブ®」を採用いただいています。「スミキューブ®」は、長期間使用後もリサイクルが可能な環境にやさしい製品です。また、燃焼時にシアンガスなどの有毒ガスが発生しない安全な素材で製造されているため、廃棄時に大気を汚染しないという特長もあります。近年、環境配慮型商品の購買意識の高まりに伴い、多くの鉄道車両で採用いただけるようになりました。

納入実績(価値創造の歩み)



東京地下鉄 有楽町線・副都心線17000系に当社の内装材が採用

東京地下鉄は有楽町線・副都心線に7000系に代わる新型車両17000系を導入し、2021年2月より営業運行しています。「2020年度グッドデザイン賞」を受賞した本車両は、より親しみを感じていただけるよう、従来の7000系や10000系を連想させるような丸型のヘッドライトを採用するとともに、インテリアを有楽町線・副都心線ラインカラーの色彩に同調させたスタイリッシュなデザインとなっています。全車両へのフリースペース設置や、車両の床面高さを低くして車両とホームの段差を低減するなど、快適性と安全性の向上にも取り組んでいます。

シート地には「トリプルフレッシュ®デオ」を施したモケットが採用され、当社独自の消臭・抗菌・抗ウイルス機能を評価いただいています。また、シートクッション材には安全性に優れた「スミキューブ®」が採用されています。



住江織物(株)
車両営業部
東京車両営業グループ
奥田 祥人

17000系は約45年にわたり活躍している有楽町線・副都心線7000系に代わる新型車両です。副都心線開業15周年(2023年)、有楽町線開業50周年(2024年)に向けて、2022年度までに全21編成180両を導入する予定です。有楽町線・副都心線ラインカラーの色彩をどのように表現するかを議論し、試作を何度も重ね開発いたしました。

本車両は東京・神奈川・埼玉と非常に広いエリアを走行しますので、多くのお客様から愛される車両製造の一助になれたと思います。

東京地下鉄株式会社
鉄道本部 車両部
設計課 主任
川村 哲也 様

さらなる安全・安定かつ高品質な輸送サービスを提供するため、有楽町線・副都心線17000系車両を導入しました。この車両のシート材料には、耐久性や耐燃焼性に加え、感染症対策などの車内環境の改善を新たなニーズとして捉え、消臭・抗菌・抗ウイルス性を求めています。今回、住江織物様には、弊社の求めるそれらの性能に加え、路線カラーをアクセントにした明るく開放的なインテリアに沿った表地の製作にあたりご協力を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。

事業セグメント別概況・成長戦略

機能資材事業・住江織物(株)、尾張整染(株)、住江テクノ(株)、
・蘇州住江織物有限公司、Suminoe Textile Vietnam Co., Ltd.

独自技術を応用した商品展開と新分野で価値を提供

事業の概要

トリプルフレッシュ®消臭フィルターやオレフィン素材による浴室床材など、これまで当社が培ってきた独自技術を応用した商品展開のみならず、K(健康)K(環境)R(リサイクル)+A(アメニティ:快適さ)のテーマのもと、無限の事業可能性を追求し、スマートテキスタイルやバイオテクノロジーに基づく機能性食品といった分野でも新しい価値を提供しています。

強み

- ① 消臭や抗ウイルスなど機能加工の活用
- ② 従来の分野や業界に捉われない事業領域の拡大
- ③ 多様な用途開発を推進する体制
- ④ 顧客ニーズに応える細かな商品開発の推進

外部環境

- ① 衛生意識・健康志向の高まり
- ② 在宅時間の増加、プライベート志向の高まり
- ③ 環境負荷低減意識の高まり
- ④ 高齢化社会

成長戦略

- ① 繊維系電気暖房商材の生産供給体制の最適化
- ② 機能材・加工技術の活用による新たな用途開発の推進
- ③ 消臭加工や抗ウイルス加工など機能加工製品の拡販
- ④ 航空機分野の品質マネジメントシステムJISQ9100による徹底した品質管理と製品供給の推進
- ⑤ 「柿ダノミ」に次ぐ新たな健康食品の開発推進
- ⑥ スマートテキスタイルの事業化推進
- ⑦ 開発部門との連携と開発営業力の強化

主要取り扱い製品



Topics

幅広い分野の社会課題の解決に貢献する水濡れ検知システムの開発



水濡れ検知布帛(リボン状)

水濡れ検知布帛(シート状)

水濡れ検知システム デバイス(イメージ)

現在、当社グループでは水濡れ検知システムの開発に注力しています。

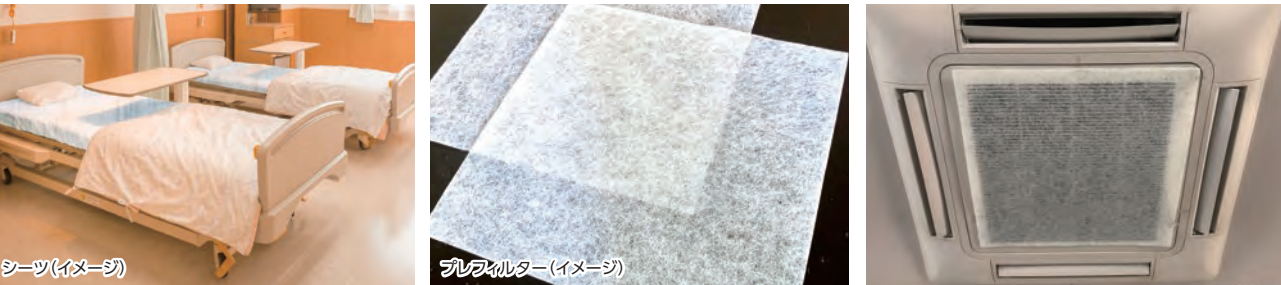
水濡れ検知システムとは、対象物が濡れている状態が実際に触れることなく一目でわかるシステムのことです。水濡れ検知布帛(導電糸の周りに吸水速乾糸でカバーリングした糸を織り込んだもの)を用いて検知した情報がデバイスを経由し、可視化される仕組みです。

このシステムの特長は、システムの感度を調整することで、乾き・ムレ・濡れのどの状態かを段階的に検知できることです。また、センサー部分が布帛であることから大面積か

つ、様々な形状の対象物を検知できます。

これらの特長を排泄補助に応用できれば、現在社会問題となっている介護現場の負担を軽減することが可能のため、様々なお客様からご注目いただいています。また、介護のみならず、建築・土木・エンターテインメントなど、幅広い分野への応用も期待されています。この水濡れ検知システムを現場ニーズの聞き取りや実証を重ね商品化することで、今後も社会課題の解決に努めていきます。

技術紹介(価値創造の歩み)



「トリプルフレッシュ®デオ」の商品展開について

近年、商品開発をする上で抗ウイルスが一つのキーワードとなっています。当社グループではこの市場ニーズを捉え、「トリプルフレッシュ®デオ」を様々な商品に応用すべく、取り組みを続けています。「トリプルフレッシュ®デオ」とは、当社グループ独自の消臭加工技術を軸に、抗菌・抗ウイルス・抗アレル物質機能を付与した複合機能加工技術です。現在は、資材用途をメインとした不織布への機能付与を目的として、シーツとプレフィルター(空調機器へ後付けするフィルター)の開発を技術・生産本部と連携し進めています。

これまで高機能不織布を開発・検討・商品化してきた実績を踏まえ、さらに規格・機能を拡大し、新たな販路や用途拡大を図ることで、より快適で安全な暮らしに貢献していきます。



住江織物(株)
機能資材事業部
大阪第2営業部
池田 翔平

営業活動を進める上で、抗菌・抗ウイルスというワードを必ず耳にするようになりました。

そういったニーズのなかで「トリプルフレッシュ®デオ」加工の展開は速やかに進めていくべきテーマであり、営業活動のチャンスだと思っています。シーツ・プレフィルターといった開発品を関係各所と連携し速やかに商品化、拡販していくように努めています。それと同時に、新たな商品展開についてもアンテナを張りながら営業活動を進めています。



住江織物(株)
技術・生産本部
テクニカルセンター
機能加工開発グループ
濱崎 孝浩

抗菌・抗ウイルスの需要が高まっているなかで、トリプルフレッシュ®デオの機能性と市場ニーズが合致し、空調機器用の機能性不織布プレフィルターの開発を進めています。課題は後付け可能な商材として空調機器に負荷をかけず、かつ機能性を持たせることです。用途に合った最適な基材・加工方法を検討し、新商材の開発に向けて取り組んでいます。今後もお客様のご要望にお応えする商品の開発を目指していきます。

CSRへの取り組み

住江織物グループの経営理念とCSRの体系

会社の目的

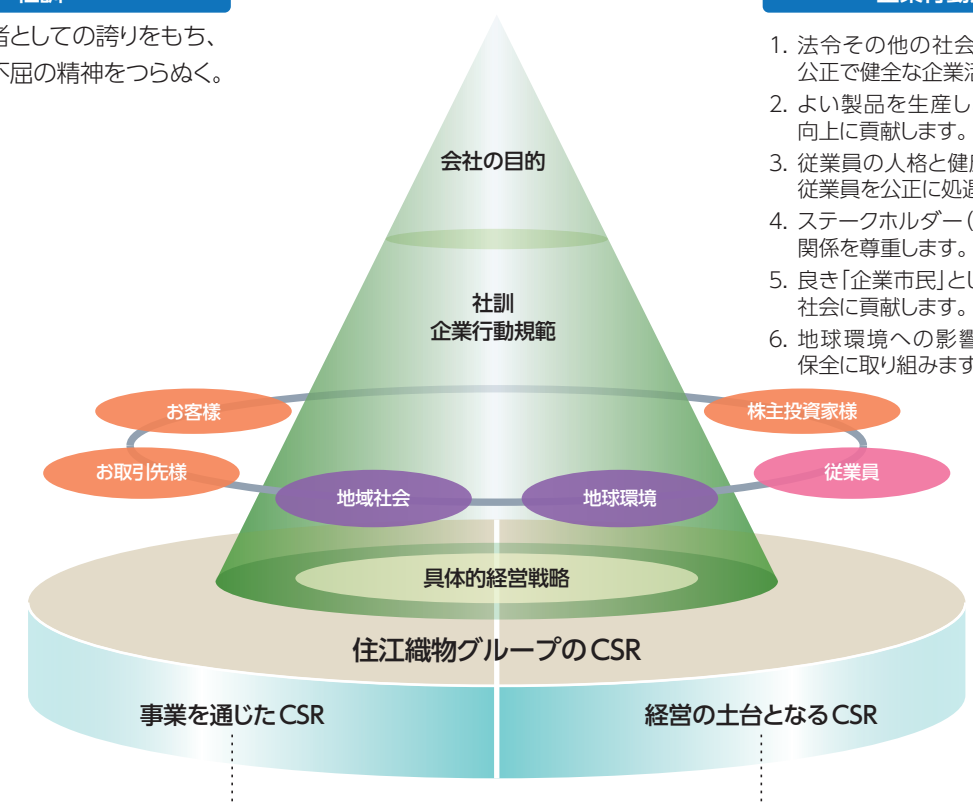
よい製品を生産し、販売し、社業の隆盛をはかり
社会の向上に貢献する。

社訓

業界の先駆者としての誇りをもち、
和協、誠実、不屈の精神をつらぬく。

企業行動規範

1. 法令その他の社会的規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行います。
2. よい製品を生産し、販売し、社会の向上に貢献します。
3. 従業員の人格と健康・安全に配慮し、従業員を公正に処遇します。
4. ステークホルダー（利害関係人）との関係を尊重します。
5. 良い「企業市民」として積極的に地域社会に貢献します。
6. 地球環境への影響を重視し、環境保全に取り組みます。



- KKR+A（健康・環境・リサイクル+アメニティ）を中心とした、地球環境・社会に貢献し、人々の暮らしや気持ちを豊かにする商品を提供する。
- グローバル戦略を推進し、当社の製品が多くの人々にご使用いただくこと、KKR+Aを世界各地に広げていくことを目指す。

- 公正で透明性の高いガバナンス体制を確立する。
- コンプライアンス※（法令遵守）を徹底し、高い倫理観をもって企業活動を行う。
- 従業員の働きやすさ・多様性に配慮するとともに、価値ある仕事を通じて成長することを支援する。

※ コンプライアンス：企業が法律や企業倫理を遵守した判断や行動をし、社会からの期待や信頼に応えること。

ステークホルダーとのコミュニケーション

私たちはCSR活動方針に基づき、以下の通り価値を提供していくことで、ステークホルダー（利害関係人）の皆様との良好な関係を構築するとともに、地球環境に寄与し次世代への責任を果たしてまいります。

お客様	お取引先様	株主投資家様	地域社会	従業員	地球環境
お客様の声に真摯に向き合い誠実な対応を心掛けます。お客様とともに快適な空間を作り上げることが私たちの喜びとし、信頼を得ることを目指します。また、品質向上の取り組みを推進してまいります。	お取引先様との関係を大切に、共にお客様への対応力の向上を目指していきます。価格・品質・納期など合理的な基準によって選定を行い、公正で対等な取引に努めます。	適正な利益の確保により、株主・投資家の皆様へ還元することを目指してまいります。IR活動により、積極的な情報開示を進めてまいります。	各国、また地域社会との交流を深め、文化・歴史を理解するとともに、社会貢献活動を行ってまいります。	従業員一人ひとりの人格や個性を尊重し、働きやすい職場環境を整備してまいります。また、能力を最大限に発揮し、課題を解決していこうという従業員の想いに応えてまいります。	地球環境の維持と改善の一助となる魅力的な環境商品・技術を生み出すことに力を注ぎます。また、事業活動を通じ環境負荷低減活動（省エネルギー、省資源、廃棄物削減など）に努めてまいります。

CSR活動方針

住江織物グループでは、「事業を通じたCSR」と「経営の土台となるCSR」を両輪としてさらなる企業価値の向上、広く社会からの信頼を得ることを目指します。

CSR計画

この先の未来も成長していくため、中長期的な「ありたい姿」を見据えESG経営を念頭に置いた中長期経営目標とともに、第3次CSR中期計画を策定し、重点課題を特定し、その解決のための取り組みを進めています。

住江織物グループが注力するSDGsの7つの目標



第3次CSR中期計画（計画期間：2021年6月～2024年5月）

ESG項目	重点課題	施策（取り組み）	関与するSDGs
G	1 コーポレートガバナンス	●公正な事業活動の推進 ●グローバル・リスクマネジメントの強化 ●歩き回る経営 ●基幹システムの再構築 ●社外取締役による経営の意思決定の強化	16 平和と正義をすべての人に
G	2 コンプライアンス	●コンプライアンス研修の継続実施 ●ハラスメント防止研修の実施 ●「企業倫理ホットライン」の運営 ●リスクマネジメント	8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と正義をすべての人に
G	3 公正な事業慣行	●業務に関わる法務教育の実施 ●グリーン調達ガイドラインに基づく調達の推進	12 つくる責任 つかう責任 16 平和と正義をすべての人に
G	4 事業継続計画	●災害時、パンデミックにおけるBCP対策	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを
S	5 人材育成・働き方	●教育研修の充実 ●多様性の尊重 ●ワーク・ライフ・バランス	3 持続可能なエネルギー 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を達成しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう
S	6 労働安全衛生	●健康経営の推進 ●長時間労働是正、有給休暇取得率のアップ ●労働災害の防止	3 持続可能なエネルギー 8 働きがいも経済成長も
S	7 社会貢献活動	●地域への社会貢献活動 ●環境関連の社会貢献活動	1 貧困をなくそう 2 質の高い教育をみんなに
S	8 全方向コミュニケーション	●会社方針の経営層と従業員による共有 ●情報の適時開示	8 働きがいも経済成長も
E	9 環境負荷低減	●地球温暖化防止（CO ₂ 削減） ●環境汚染防止 ●環境負荷低減製品開発 ●エコチャレンジ	6 安全な水とトイレを世界中に 7 再生可能エネルギーをみんなに 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を

当社グループとして取り組むべき課題を特定した上で、「重点課題」を特定し、施策（取り組み）を策定しています。また、ESG項目と、SDGsとの関連性も整理しています。

※ ESGとは、環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を取ったものです。今日、長期的な成長のためには、この3要素の観点が必要だという考えが世界に広がっています。

CSRへの取り組み

2020年度のCSR活動実績

ISO26000を参考ガイドラインとし、7つの取り組み分野に分け、中期的な取り組みを掲げています。

2020年度の実績は次のとおりです。

A:達成 B:ほぼ達成 C:未達成

取り組み分野	関連ページ	重点項目	主なテーマ	2020 年度の取り組み目標	2020 年度実績	自己評価
ガバナンス・コンプライアンス	P.27 ～30	コーポレートガバナンス	公正な企業活動の推進のために、取締役会・監査役会および各種委員会での検討	●取締役会・監査役会の開催 ●CSR推進委員会での活動計画の審議 ●コーポレートガバナンス・コード改訂に対する報告書(2020年9月)	●取締役会を9回、監査役会を9回開催 ●CSR推進委員会を3回開催し、活動計画を審議 ●コーポレートガバナンス・コード改訂に対する報告書(2020年9月)	A
			評価範囲内対象会社について、財務報告に係る内部統制の有効性を評価	●内部統制有効性評価において、開示すべき重要な不備件数0件とする	●財務統制委員会を中心とした活動実施【実績：開示すべき重要な不備件数0件】	A
		コンプライアンス	住江織物グループ行動規範および行動基準の浸透	●役員対象コンプライアンス研修の実施 ●各階層別研修でのコンプライアンス研修 ●新入社員へのコンプライアンスガイダンス配布および基礎知識講習 ●コンプライアンス情報を適時イントラネットでアップ【計画比実施率：100%】	●各階層別研修(マネジメント職 監督職昇格指導職昇格研修時) ●新入社員研修でのコンプライアンス研修実施【計画比実施率：100%】 ●コンプライアンス研修実施(役員研修1回、コンプライアンスワークショップ1回)	A
			コンプライアンスに関するモニタリングの継続実施	●ローテーションによるコンプライアンス監査の実施【計画比実施率：100%】	●ローテーションによるコンプライアンス監査の実施【計画比実施率：100%】 ※国内事業会社2社に実施	A
			ホットラインの周知	●公益通報者保護法改正対応 ●新規入社者へのホットライン周知 ●階層別研修、ハラスメント防止研修の機会を捉え、ホットライン周知【目標：100%】	●公益通報者保護法改正対応未実施⇒来期での実施 ●新規入社者への周知の実施 ●階層別研修、新入社員研修、コンプライアンスワークショップを通じてホットラインの周知【実績：100%】	B
事業履行	—	公正な取引	契約状況の見える化・取引に関する法務教育およびモニタリングを実施	●下請法など法務知識の情報発信 ●内部監査実施【計画比実施率：100%】	●「下請事業者との取引に関する調査」への回答対応 ●下請取引に関する注意点をイントラネットで発信 ●内部監査実施(前期計画)	A
	—	グリーン調達	グリーン調達ガイドラインの推進	●サプライヤーへのガイドラインの配布と帳票の回収【目標：年1回】	●サプライヤーへのガイドラインの配布と帳票の回収	A
人権・採用・人事処遇・育成	P.33 ～34、37 ～38	多様性の尊重	多様性を尊重し、働きやすい職場づくりを実施	●障がい者雇用率達成比率のアップ ●育児支援制度、介護支援制度の充実 ●ワーク・ライフ・バランス推進(ノー残業デー推進、有給休暇取得率のアップ)	●障がい者雇用率達成比率のアップ 未達成 ●ノー残業デー推進の継続 ●有給休暇取得率のアップ ●育児支援マニュアルの作成と案内	C A
			自らの能力向上の支援としての集合教育の実施	●階層別・テーマ別研修の実施と内容の充実	●階層別・テーマ別研修の実施と内容の充実 ●スキルアップ研修と仕事効率アップセミナーの実施	A
		人材育成	グローバル人材の育成	●赴任前教育の実施 ●語学研修の継続実施	●語学自己啓発研修の定期的な案内	B
			女性活躍	●女性社員を積極的に採用 ●異業種社外セミナーや外部勉強会への派遣 ●活躍している女性社員の紹介 ●ロールモデルとの座談会実施 ●ジョブリターン制度の運用とグループ展開	●女性社員の採用比率(新卒) 41% ●女性活躍サポートフォーラムの21世紀塾、管理職研修への参加(4名) ●CSRレポートでの女性活躍社員紹介	B
			人材活性化	●「コミュニケーションヒアリング」の各拠点での実施 ●「次世代育成面談」の実施 ●「ランチミーティング」の実施	●「コミュニケーションヒアリング」の各拠点での実施 ●「次世代育成面談」の実施 対象者6名 ●「オンライン座談会(仕事・育児・家事の両立)」の実施	A
安全・防災・健康	P.35 ～36	労働安全衛生	社員の安全を守るための活動計画を推進	●中央安全衛生部会による意見集約と情報の共有化 ●労働災害情報の共有化 ●休業件数での労働災害度数率目標：1.0以下 ●安全教育の実施 ●リスクアセスメントの推進	●中央安全衛生部会による意見集約と情報の共有化 ●労働災害情報の共有 ●各グループ会社の安全衛生推進体制の再整備 ●安全衛生教育資料の共有 ●新入社員研修に安全衛生教育を導入 ●リスクアセスメントの推進(危険箇所の改善前・改善後の状態を記録することを徹底)	B
				●防災訓練の実施【計画比実施率：100%】	●防災訓練の実施 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、WEB訓練実施(本社ビル)【計画比実施率：100%】	A

取り組み分野	関連ページ	重点項目	主なテーマ	2020 年度の取り組み目標	2020 年度実績	自己評価
安全・防災・健康	P.30	労働安全衛生	社員の健康を保持するためのケアを実施	●ハラスメント防止研修の継続実施 ●ハラスメント相談窓口の広報促進	●各階層別研修(マネジメント職、監督職昇格、指導職昇格研修)時 ●新入社員研修でのコンプライアンス研修実施【計画比実施率：100%】 ●ハラスメント対策に関わる改正法と指針をイントラネットで開示	B
	P.34			●時間外労働時間の管理、把握 ●時間外労働の多い従業員との面談実施 ●業務改善の取り組み	●時間外労働時間の定期的なチェック、タイムレコーダーとの乖離の確認と指導 ●コロナ禍での時差出勤、在宅勤務の実施継続	B
	—			●健康管理の推進	●インフルエンザ予防接種補助金支給 ●各拠点・事業所での新型コロナウイルス感染症防止策の継続実施	A
リスクマネジメント	P.32	BCP	災害時、パンデミック時の事業継続計画推進	●他事業所での安否確認訓練実施 ●本社事業所におけるBCP訓練の実施 ●安否確認方法の改善を検討 ●パンデミック時の感染防止策、ガイドライン策定	●(株)スミノエでの安否確認訓練実施 ●本社事業所におけるBCP訓練の実施 ●コロナ禍での在宅勤務ガイドライン策定	A
	P.31 ～32	知的財産権	知的財産権への理解促進	●知的財産権に関する啓発活動の実施(社内イントラネット・研修)【計画比実施率：100%】	●知的財産権に関する啓発活動の実施(社内イントラネット 年5回) ※知的財産NEWSとして【計画比実施率：100%】	A
	P.32	情報セキュリティ	情報セキュリティ教育の実施(情報端末セキュリティ、個人情報保護)	●情報管理規程の改定と体制整備 ●秘密情報の再確認 ●営業秘密に関する勉強会の実施 ●各階層研修での情報セキュリティ教育の実施	●情報管理規程・情報機器管理規程の改定 ●営業秘密管理強化・秘密情報範囲・管理ルール説明会の実施 ●情報端末パスワード設定条件の再策定	A
	—		インサイダー取引防止啓発活動の実施	●インサイダーに関する啓発活動を実施	●インサイダー取引防止規程改定	A
	—	品質向上	品質向上の取り組み推進	●品質保証合同会議の定期開催 ●品質向上(不良品低減、品質損失金額低減活動) ●化学物質規制に関する状況共有の取り組み継続実施	●品質保証合同会議の定期開催 年4回 ●品質向上(不良品低減、品質損失金額低減活動) ●化学物質規制に関する状況共有の取り組み継続実施	A
	—	顧客満足の向上	お客様対応と社内への展開	●お客様センターへの問い合わせ内容のCSR推進委員会への報告 ●クレーム内容と対処結果の分析 ●お客様の声を活かした商品開発	●お客様センターへの問い合わせ：2,935件 そのうち、商品・規格・価格・機能性に関する問い合わせ15%(428件)、ご指摘が2%(62件)ご指摘については、内容を分類した後、原因を分析し、次回の商品開発に活用	B
消費者・社会貢献活動	—	情報開示	適正なIR情報の開示	●企業活動におけるIR情報の適時開示 ●決算短信 4半期ごとに東証への適時開示および自社HPに掲載を遅滞なく実施	●決算説明会 東京・大阪で年2回の実施 ●決算短信 4半期ごとに東証への適時開示および自社HPに掲載を遅滞なく実施	A
	P.6 ～8	外部コミュニケーション	ステークホルダーとのコミュニケーション促進(当社の強みのPR)	●外部コミュニケーションの実施 ●CSRブランド向上の取り組み	●中長期経営目標「SUMINOE GROUP WAY 2022～2024～2027」を策定、2021年7月発表 ●ESGに係る活動をまとめたESGレポートを2021年5月に発刊 ●オンラインによる施工など講習会の開催：ルノン(株) ●第7回医療と介護の総合展 大阪に出展 ●第89回 東京インターナショナル・ギフト・ショー春 2020出展 ●住江織物(株) 織カーペットの歴史展開催：東京ショールーム ●「2020年 SUMINOE オンライン展示会」をHP上にて開催：(株)スミノエ	A
	P.39	社会貢献活動	地域への貢献 環境関連の社会貢献活動実施	●社会貢献活動の推進	●地域への貢献、環境関連の活動は継続実施 5拠点で確認	B
環境	P.40 ～45	事業活動における環境負荷の低減	地球温暖化防止	●エコチャレンジ2021行動計画にて設定	●使用エネルギーからのCO ₂ 排出量は、削減されるも目標未達 ●再生資源利用は目標達成 ●産業廃棄物発生量は目標未達(削減の原単位は2019年度基準とする)	B

ガバナンスの強化

信頼される企業基盤の構築～公正で健全な経営

コーポレートガバナンス※

ガバナンス体制

経営の健全性、効率性の確保のため、社外取締役の選任、監査役制度の機能強化を図るなか、経営の迅速かつ機動的な意思決定と業務執行の監督機能として取締役会と業務執行責任を負う執行役員制度を導入しており、ガバナンスの有効性を確保しています。

※コーポレートガバナンス：一般的に「企業統治」と訳され、経営の透明性や企業価値の向上を目的に企業経営を管理・監督する仕組み。

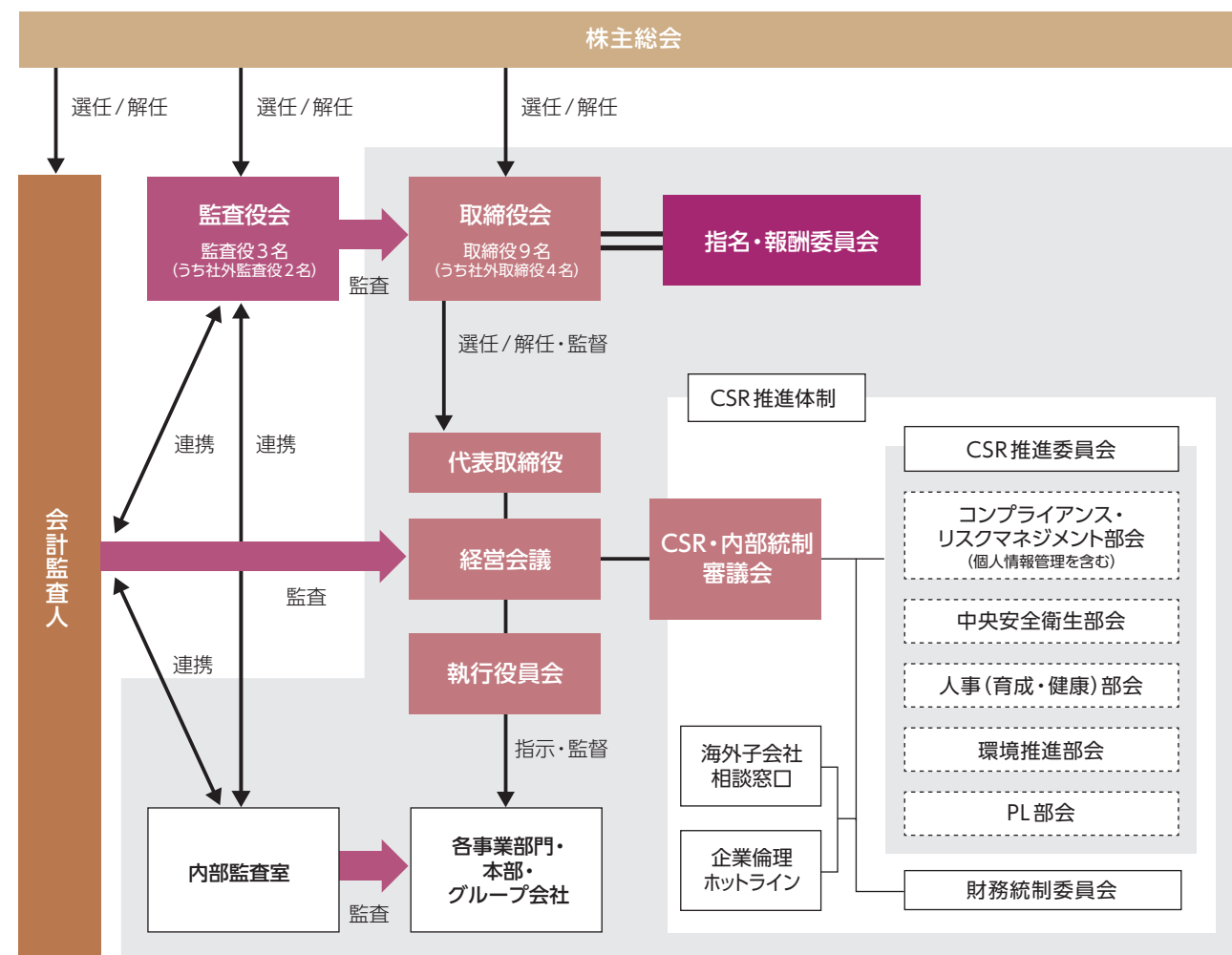
CSR推進体制

CSR推進委員会は、CSRに関する活動方針の決定や各部会の活動計画の審議、進捗確認など、中心的な役割を担う機関として住江織物（株）本社にて年に4回開催しています。

また、再発防止中長期プランの計画審議および進捗確認を行っており、ガバナンスおよびコンプライアンス強化を推進しています。

各部会においては、CSR課題の把握および具体的な施策の実施に向けて、活発な討議を重ねています。

コーポレートガバナンスとCSR推進体制図



取締役会

9名の取締役（うち、社外取締役4名）で構成し、業務執行の監督および重要事項の決定を行っています。

監査役会

監査役3名（うち、社外監査役2名）で構成し、監査方針・計画の決定、監査報告についての協議を行っています。

指名・報酬委員会

取締役会の指名や報酬等に関する評価・決定プロセスを透明化・客観化することで監督機能の強化を図り、コーポレートガバナンス体制をより一層充実させるため、取締役会の諮問機関として設置しています。

委員会は、代表取締役、独立社外取締役および取締役会

の決議によって選任された取締役の委員5名で構成し、その過半数は独立社外取締役などの社外役員としています。

経営会議／CSR・内部統制審議会

経営会議は、原則毎週開催し、経営上重要事項の報告・審議を行い、特に重要事項については、取締役会に上申します。CSRに関する重要事項および財務報告に係る内部統制の評価については、CSR・内部統制審議会として審議します。常勤監査役1名がオブザーバーとして参加しています。

執行役員会

社長以下、執行役員で構成され、毎月1回開催されます。取締役会もしくは経営会議での決定事項の通達および各執行範囲における現状の報告が行われます。

役員一覧

吉川 一三	永田 鉄平	薄木 宏明	丸山 敏朗	木村 栄一郎	市川 清一
取締役会長	代表取締役社長 インテリア事業部門長	代表取締役常務取締役 管理本部長	取締役 産業資材事業部門長	取締役 技術・生産本部長 住江テクノ株式会社 代表取締役	常勤監査役
清水 春生	野村 公平	牧野 考一	種田 ゆみこ	園田 篤弘	片山 貴文
社外取締役 バンドー化学株式会社 社外取締役 (監査等委員) 芦森工業株式会社 社外取締役	社外取締役 野村総合法律事務所 代表弁護士	社外取締役 株式会社高島屋 上席執行役員	社外取締役 株式会社ブレイン 取締役	社外監査役 株式会社高島屋 企画本部財務部副部長	社外監査役 丸紅インテックス株式会社 代表取締役社長

G ガバナンスの強化

Governance 信頼される企業基盤の構築～公正で健全な経営

● コンプライアンスの徹底

基本方針

法令・企業倫理を遵守した企業活動

当社グループは、コンプライアンス経営を実践するための基本方針として「住江織物グループ企業行動規範」・「住江織物グループ企業行動基準」を定めています。

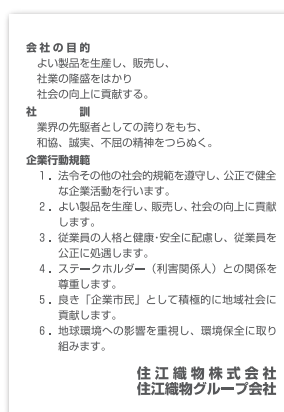
当社グループの役員および従業員は、基本方針をよく踏まえ、常に自らの考えや行動が、法令・企業倫理に沿ったものであるよう心がけています。

推進施策

日常的にコンプライアンスを意識する風土づくり

当社グループは、コンプライアンスを意識する手段として、様々なコンテンツにより情報の発信を行っています。2017年4月に発行した「コンプライアンスガイダンス」をツールとして、入社時と各階層別研修時にコンプライアンスについての講義を継続して行っています。

海外グループ会社の社員には、英語版・中国語版のガイダンスを配布しました。そのほかにも、コンプライアンス意識の醸成を目的として企業行動規範の唱和を行っています。



「企業行動規範」ポスター



コンプライアンスガイダンス
(日本語版・英語版・中国語版)

コンプライアンス教育

企業ガバナンスの強化・コンプライアンスの徹底に対する啓発活動を繰り返し実施

企業活動を行う基本としても、高い倫理観を持ってその場に適応した法令を遵守することが必要です。

当社グループでは定期的なコンプライアンス教育を繰り返し行っています。今年度は、当社グループのインテリア事業部門である(株)スミノエの北日本支社北海道ブロックを対象にワークショップを実施し、30名が受講しました。営業部門におけるコンプライアンスという観点を踏まえ、業務に潜むリスクや不正リスクの内容について多くの事例を取り上げ、コンプライアンスの重要性と倫理観の大切さについて意識の共有を図りました。



コンプライアンス教育の様子((株)スミノエの北海道ブロック)

公正な取引

役員を対象としたコンプライアンス研修を実施

当社グループでは、お取引先様から信頼していただける企業を目指し、日々公正な取引を意識して活動しています。今年度は弁護士の先生を講師に招き、独占禁止法に記載されている禁止行為の1種である「談合・カルテル」について、役員コンプライアンス研修を実施しました。役員には、不当な取引制限を従業員が行わないように監視・監督する義務や、システムを構築する義務などがあります。役員は今回の研修で、公正な取引の重要性を再認識しつつ、独占禁止法に関する最近の動向や法改正の情報を収集することができました。今後もこのような公正な取引のための取り組みを続けていきます。



TV会議を併用した役員コンプライアンス研修の様子

内部通報制度

窓口の周知および利用の促進

当社グループにおける従業員が、社内で法令や企業倫理に反する行為などを発見したときの通報受付窓口として「企業倫理ホットライン」を設置しています。社内窓口には企業倫理ホットライン運営室、社外には弁護士窓口、ハラスメント専門窓口、健康相談窓口を設けています。気軽に安心して相談してもらえるように、各社内研修やコンプライアンスワークショップなどの機会に窓口の周知および利用を促しています。

▼ 各種相談窓口の相談状況(件数)

相談内容／年度	2019	2020
企業倫理ホットライン	1	1
社外弁護士	1	0
健康相談窓口(ハラスメント相談)	2	2
ハラスメント相談窓口	0	0
計	4	3

働きやすさアンケート(社内意識調査) 2021

働きやすい環境の実現とCSR活動の進捗の確認

CSR活動の進捗状況を測り、今後の取り組みに活かすために年に1回「働きやすさアンケート」を国内・海外グループ会社の全従業員を対象として実施し、集計しています。

今回のアンケートでは、「わたしは、今の会社で長く働きたい気持ちが強い」という質問に対して、「そう思う」という回答が上司は0.13ポイント、一般社員は0.04ポイント上がりま

した。また、労働時間の適切さや残業代・休暇申請のしやすさについても年々改善傾向にあります。「女性活躍の推進」や「担当業務の長期固定化」についての回答傾向には今回もわずかな改善しか見られませんでした。これらの課題は人材活性化の中心として継続的な取り組みを実施していきます。

自由記述の設問内容は、「コンプライアンス」「働き方改革」「情報共有・コミュニケーション」としました。アンケートの集約方法の変更もあり、多くの意見・課題を集約することができました。コロナ禍により暫定的に実施している在宅勤務、時差出勤制度に対する記述は多く、今後の制度づくりに向けて、そのあり方、評価方法などを含めて検討していきます。

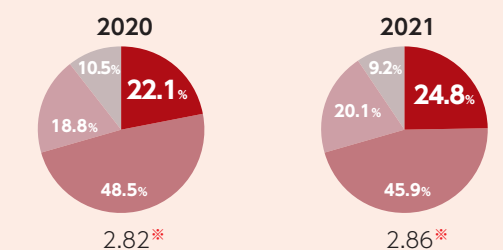
アンケート結果のまとめは、経営会議・執行役員会、各部門責任者に報告しています。従業員は社内イントラネットで閲覧が可能です。

アンケート調査の主な回答集計(一般・契約社員の結果)

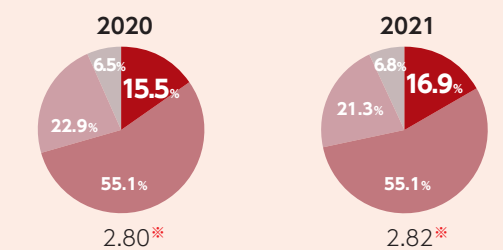
国内・海外のグループ社員全員を対象に実施。「業務」「職場」「会社風土」など8つの分野の設問があり、各設問に対して4段階で回答する選択形式と自由記述の2種類があります。但し、以下のアンケート結果には海外の社員からの回答は含まれていません。

■ そう思う4点 ■ どちらかといえばそう思う3点
■ どちらかといえばそう思わない2点 ■ そう思わない1点

わたしは、今の会社で長く働きたい気持ちが強い



わたしは、今の仕事にやりがいを感じている



* 4点を満点とした指数

G ガバナンスの強化

Governance 信頼される企業基盤の構築～公正で健全な経営

● リスクマネジメント

リスクマネジメント

国内事業所のリスク管理

国内事業所のリスクマネジメントについては住江織物(株)およびグループ会社より報告されたリスクに基づき財務諸表の重要な虚偽表示のリスクを中心として把握を進め、そのリスク評価を財務統制委員会にて検討し、経営会議に報告しています。国内事業所では内部統制の運用において、一定レベルまでリスク軽減はできていますが、今後も引き続きIT化を推進し、各リスクをより軽減する体制を確立させていきます。

海外子会社のリスク管理

毎年、住江互太(広州)汽車繊維製品有限公司(中国)のリスクを洗い出し改善するリスクマネジメント活動を行っています。開始8年目となる今年度のリスクは、「コスト競争力の向上」をテーマとしました。このリスクを改善するための具体的な取り組みとして、「加工効率のアップ」や「調達材料の見直し」などがあげられました。取り組みごとに責任者を選定し、その責任者の所属部署で検討した改善事項は、目標として設定しています。毎月その取り組みの実績を精査し、目標達成までに不足がある場合は追加できる改善事項がないかの検討を行うことで、より確実に成果を上げ、目標達成できるように取り組んでいます。

また、住江互太(広州)汽車繊維製品有限公司はPT. Suminoe Surya Techno(インドネシア)と並行して、新たにリスク低減を図る生産管理システムの導入を進めています。これにより、PT. Suminoe Surya Techno同様にリスク低減として在庫管理の精度向上と内部統制強化を重視するとともに、すでに導入されている財務会計ソフトや検反システムとのデータ連携を行い、作業負荷を軽減します。

引き続き、海外子会社の高リスク領域を中心とした効果的・効率的なリスク管理を継続します。

ISRP(情報システム リエンジニアリングプロジェクト)

全社協力体制で基幹システムの再構築を推進

基幹システムの再構築をグループ全体で進めており、2018年11月よりグループ全社プロジェクトとしてトップダウンによる推進体制となりました。

今年度は、生産管理システムパッケージを繊維業界に特化した管理機能システムに見直し、シンプルかつスムーズな横展開を目指して順次開発を推進中です。

国内では、車両資材事業部門で、2021年2月からこの新システムが稼働しており、発注状況の「見える化」や織工場を含めたデータ活用によるFAX削減など、一定の効果が表れています。また、スミノエ テイジン テクノ(株)の調達部門でも、要件定義(必要な機能や要求をわかりやすくまとめていく作業)を固め詳細設計に入っています。この部門の詳細設計は、今後の営業支援システムの構築や当社グループへの横展開も視野に製販一体を目指し、営業倉庫や将来の在庫の「見える化」も含めたシステムの構築を目指しています。

海外では、PT. Suminoe Surya Technoと住江互太(広州)汽車繊維製品有限公司で、この新システムの導入を進めており、要件定義を終え現在は詳細設計を進めています。PT. Suminoe Surya Technoでは、コロナ禍により現地対応ができず進捗に多大な影響があるため断念は許しませんが、新システムの操作方法を新たに導入した動画で解説するなどの対策を講じることで現地での運用テストを開始しており、2ヵ月間の並行稼働を経て本番稼働に繋げるべく現地と連携して取り組んでいます。

知的財産の取り組み

知的財産権への理解促進と意識向上

知的財産権のなかには特許権、実用新案権、意匠権、商標権などがあります。それぞれ保護対象や保護できる期間が異なるため、どの知的財産権で保護することが最もよいか選択する必要があります。そのため、社内の知的財産権に対する理解促進および意識向上を図る活動に取り組んでいます。

新入社員には、身近なところで用いられている知的財産権の紹介および当社の活用事例を説明しました。それに加

えて、奈良事業所・本社間で定期的に行っている技術会議では、関連の特許情報や知的財産権に関するトピックス(特許法の一部改正、特許法上の有効な制度)を紹介しています。

また、社内イントラネット上にも「知的財産NEWS」を掲載し、商標の使い方と守り方、商標のRマークなどの知的財産教育を行っています。

今後も知的財産権に対する教育を継続的に行い、当社グループの技術に関する権利を保護していきます。



オンラインを併用した技術会議の様子(本社)

事業継続計画(BCP※)の進捗

安否確認訓練の実施

当社グループでは以前より、緊急事態発生時に企業として信頼を継続させるためには、お客様への迅速で正確な情報発信がキーだと考え、安否・被災状況などの情報収集を重視したBCP行動計画の策定に取り組んできました。住江織物(株)本社ビルでは、緊急事態発生時の動作の確認を特に重視し、社内緊急連絡ルールに従って社員の安否を確認する「BCP安否確認訓練」を継続して実施しています。2021年9月3日に、安否確認訓練を実施し、対策本部にて社員全員の安否を速やかに確認することができました。

※ BCP: Business Continuity Planningの略称で、災害や事故などの緊急事態が発生した際に事業の継続や復旧が速やかに行えるよう策定される計画。

営業秘密の管理

規程改定による営業秘密管理体制の強化

様々な企業で情報セキュリティ対策が重要視される一方で、在宅勤務の普及によって営業秘密※の流出リスクが高まっていると言われています。

当社グループでも、新型コロナウイルス感染症拡大防止策として在宅勤務が開始されたことに加え、年々、営業秘密の電子データが増加していることから、営業秘密の管理体制を強化することが急務となっていました。

このような事態に対応するため、営業秘密に関連するいくつかの規程を改定しました。改定にあたり、コンプライアンス・リスクマネジメント部会で、グループ会社も含めた各部門の従業員から今後の管理体制に関して意見を募りました。職場の意見を反映することにより、業務効率に配慮しつつ、営業秘密の管理を強化させることを目指しました。

また、従業員に営業秘密管理の重要性を再認識させ、新規規程の周知を徹底するために、オンラインも併用した説明会を実施しました。

今後も取り組みを継続していきます。

※営業秘密: 事業活動に有用な技術上または営業上の情報を指す。



オンラインを併用した説明会の様子

社会への取り組み

従業員の成長～一人ひとりが能力を最大限に発揮できる職場づくり

人権の尊重

当社グループは、人種、信条、宗教、国籍、身体的特徴などの理由で嫌がらせや差別を受けない健全な職場環境を確保します。

多様性の尊重

当社グループは、企業の持続的成長の源泉は人材であり、一人ひとりが能力を最大限発揮し成長することが重要と考えています。

取り組みの一つとして、外国人技能実習生を受け入れている尾張整染(株)では、現場での翻訳辞書や翻訳機の設置、共用部(食堂・トイレなど)や配布書類での実習生の母国語の記載など、働きやすい環境づくりを心がけています。今後も、性別・年齢・国籍を超えて多様な人材がいきいきと活躍できる環境をつくっていくことを大切に取り組んでいきます。

▼ 人事データ (国内グループ)		各年度5月末時点	
項目／性別／年度		2020	2021
従業員数(名)	男性	1,210	1,156
	女性	569	544
平均年齢(歳)	男性	46.6	47.4
	女性	41.9	43.5
平均勤続年数(年)	男性	15.8	16.6
	女性	12.1	12.5
新卒採用者数(名)	男性	19	10
	女性	14	7
障がい者雇用比率(%)		1.26	1.71
女性管理職比率※(%)		11.4	11.1

※ 国内グループ会社の係長職以上に相当する社員の中の女性の割合。

人材育成

当社グループの全社員を対象に階層別、役割別、選択型などに区分された様々なカリキュラムを用意しています。

住江織物(株)では、入社後1ヵ月間を集合研修とオンライン研修、5～9月までの5ヵ月間はOJT※研修期間として研修を実施しています。入社3年目までを若手と位置づけ、新人の配属部署の所属長・OJT担当者は3年間の育成計画を作成し、それに基づき指導を行います。

※ OJT: On-the-Job Trainingの略。職場で実務を経験しながら行う従業員の職業教育のこと。

▼ 研修受講者数		(2020年度)		
研修体系／受講者数(名)		計	男性	女性
階層別、役割別 選択型(スキルアップ)	オンライン 研修	164	111	53
	集合研修	16	13	3
選択型(自己啓発)	通信教育	119	87	32
	語学研修 (オンライン)	25	19	6
	語学研修 (通学)	1	1	0

Topics

オンラインで
スキルアップ研修を実施

外部から講師を招き、業務の効率化に役立つWord、Excelについての研修をオンラインで行いました。午前・午後の部で違う研修内容を実施し選択制にしたことで、受講者はより必要な内容について学ぶことができました。国内、海外問わず各グループ会社から多数の申し込みがあり、午前に81名、午後に62名の参加となりました。「移動時間がかからないのがよかった」や「職場で参加するよりも自宅の方が集中できた」など、オンライン特有のメリットをあげる声が多数ありました。

参加者の感想



住江織物(株)
車両営業部
大阪車両営業グループ
多田 凌也

すぐに仕事で活用できる内容であり、丁寧でわかりやすい講義だったので、短時間でも知識を深めることができました。今後もこういったスキルアップの機会があれば積極的に参加し、業務の効率化に結びつけていきたいです。

Topics

「次世代育成面談」を実施

住江織物(株)では、入社6年目の若手社員6名を対象に「次世代育成面談」を実施しました。人事第3部会での意見を反映し、今回は1名につき2回面談を行いました。1回目は若手社員自らが話を聞きたい先輩社員を指名し、先輩社員の若手の頃の悩み、目標、仕事への取り組み方、現在の想いなどを聞き、アドバイスをもらいました。2回目は、現在の業務や今後のキャリアについて約1時間、人事部長と面談を行いました。

対面またはオンラインで、普段交流がない遠隔地の先輩社員や人事部長と話すことで、若手社員からは「貴重な体験であり、モチベーションが上がった」「自身の業務に感じていることを話すことによって、気持ちや意識の棚卸ができてスッキリした」という感想がありました。また、先輩社員からは「自分を振り返るよい機会で刺激になった」「近い世代の社員同士での交流・意見交換の機会がありませんので繋がりを感じられてよかった」という感想があり、双方にとって有意義な機会であることがわかりました。また、人事部長からも「貴重な経験ができた。『歩き回る人事部長』をこれからも継続していきたい」という発言がありました。

次年度以降も、若手社員の面談を継続的に実施し、若手社員が自らの目標を再認識し、成長する後押しができるような体制づくりに力を入れていきます。



対面での「次世代育成面談」の様子

両立支援

当社グループでは、男性社員の育児休業取得を促進するため、対象者本人とその上司に育児休業に関する規程を案内しています。今年度は初めて3名の男性が育児休業を取得しました。引き続き取得者の増加を目指し、両立支援や働きやすい職場環境づくりに取り組んでいきます。

▼ 育児・介護を支援する制度の取得者(国内グループ)

項目／性別／年度			2019	2020
育児休業関係	休業取得者数(名)	男性	0	3
		女性	11	12
	休業復帰者数(名)	男性	0	3
		女性	5	11
	短時間勤務取得者数(名)	男性	0	0
		女性	9	17
始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ取得者数(名)	男性	0	0	
	女性	4	5	
介護休業関係	休業取得者数(名)	男性	4	2
		女性	6	2
	短時間勤務取得者数(名)	男性	0	0
		女性	0	0
	始業・終業時刻の繰上げ・繰下げ取得者数(名)	男性	0	0
		女性	0	0

労働安全衛生

労働時間管理

長時間労働改善の推進

CSR推進委員会のもと設置している人事第1部会では、労働時間の現状把握を定期的に行い、その結果を踏まえ長時間労働改善の検討を行っています。コロナ禍で一部の事業所では在宅勤務を実施していますが、在宅勤務は勤務時間が長くなりやすい一面もある上、正確な時間管理の把握が難しい課題があります。この課題の解決策の検討と、引き続き出勤時刻と在宅勤務時間の把握、ノー残業推進メッセージの発信を行います。また、長時間労働の傾向がある社員とその上司への面談の実施など、長時間労働改善に取り組んでいきます。

有給休暇取得については、前年度より取得率が上がりました。

▼ 有給休暇取得実績(国内グループ)

項目／年度	2019	2020
年次有給休暇取得率(%)	56.6	59.4

S 社会への取り組み

Social 住江織物グループの労働安全衛生推進

● 重大事故発生について

当社グループでは、2020年12月に住江テクノ(株)滋賀工場において労災死亡事故が発生しました。この事故を重大に受け止め、再発防止に向けて、安全衛生活動を全社一丸となり進めています。

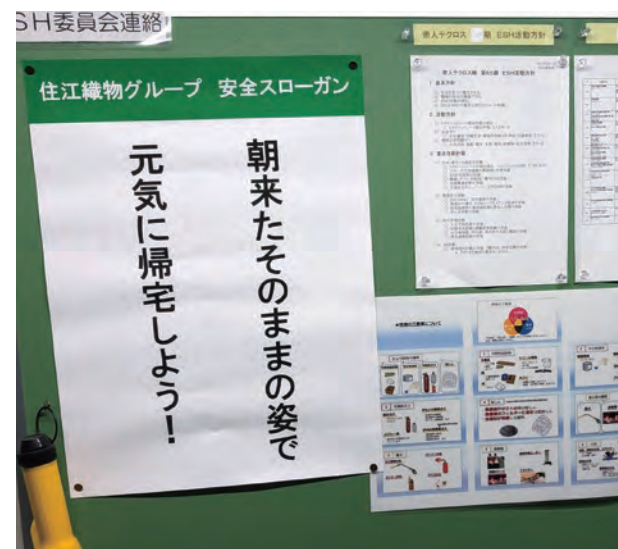
● 住江織物グループ 安全宣言

住江織物グループは、企業行動基準「第2章第4節 安全で健康的な職場環境の確保について」において、「すべての事業活動の全プロセスにおいて、人の安全と健康の確保を最優先します」と謳っています。

また、「第1項 労働災害の撲滅」において、「人の安全と健康は何物にも換えることは出来ません。労働災害の撲滅には、関係法令はもとより、安全衛生に関する社内ルールの遵守が大前提です。日々の業務遂行において、基本を遵守し、危険予知の感性を育む、安全衛生教育を徹底して行います」としています。

昨年12月の労災死亡事故を受けて、私たちはもう一度この企業行動基準を徹底すべきと考えます。住江織物全グループ、全職種において、「安全の3原則」、1.整理整頓、2.点検整備、3.標準作業の徹底を図ります。

「安全第一」安全は何物にも優先します。



「住江織物グループ 安全スローガン・ポスター」の設置
(国内・海外製造拠点)

● 安全衛生方針・安全行動規範

中央安全衛生部会では、グループ会社共有の安全衛生方針と安全行動規範を、2021年6月1日に制定しました。

また、「STOP6重大災害を防ぐ18の鉄則」として、グループ会社で共通した災害についての防止策を策定し、周知しました。労働災害の未然防止に向けて全員参加で取り組んでいます。

住江織物グループ 安全衛生方針
「安全第一」安全は、何物にも優先する。
住江織物グループでは「安全」を経営の最重要課題と位置づけ、すべての事業活動の全プロセスにおいて、人の安全と健康の確保を最優先し、労働災害を未然に防止するとともに、快適な職場環境を形成します。

住江織物グループ 安全の3原則

- 整理整頓
- 点検整備
- 標準作業の徹底

住江織物グループ 安全行動規範

- トップは安全文化向上に率先垂範で行動する
- 安全への風土づくりの醸成をおこなう
- 適用法令、社内規定を遵守する
- 全員参加型で職場の作業環境の改善を目指す
- 危険予知による安全の先取りをおこなう
- 安全教育、訓練の実施をおこなう

住江織物グループ 安全目標

- 労働災害事故発生完全ゼロ

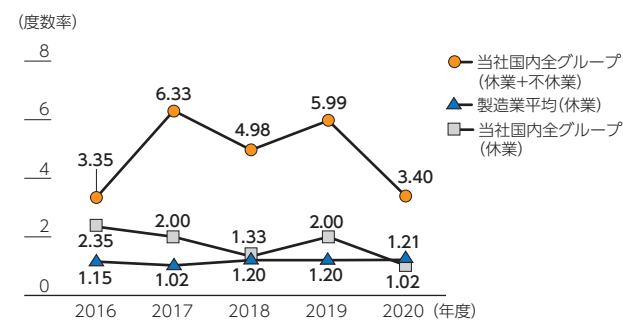


重大災害の分類による防止対策ポスター

● 労働安全衛生の進捗について

当社グループでは、中央安全衛生部会において、各グループ会社の安全衛生推進者が年2回集まり、労働災害の未然防止についての意見交換や活動報告を実施しています。今年度は、労働災害件数・休業災害件数とも減少しましたが、重大事故が発生しました。リスクアセスメントを強化し、事故の起こらない環境の整備に努めます。

国内グループ 労働災害度数率※推移



出典：厚生労働省「令和2年度労働災害動向調査」

※ 労働災害度数率：100万労働時間あたりの労働災害による死傷者数

● 住江テクノ(株)の取り組み

安全衛生推進体制の強化

労働災害の未然防止活動に対する体制・役割を明確化

従来より、安全衛生委員会が危険箇所のチェックと未然防止活動を行っています。2020年12月の事故を受け、職場実行委員会と分科会と安全衛生委員会のそれぞれの役割と目的を明確化し、推進体制の強化を図っています。

安全衛生資料の社内イントラネット管理

体系的な情報の整理と記録の更新による

進捗状況の把握

安全衛生活動を一元管理するために、安全衛生委員会が主体で策定する安全衛生関連の資料を社内イントラネットで確認できるように構築しました。最新の資料、進捗状況を把握できる資料を整理しています。また、各グループ会社の安全衛生活動の参考になるように情報を公開しています。

安全衛生に関する資料の社内周知、安全衛生教育資料の更新

従業員が職場で守るべきこと、

安全衛生に対する知識の周知

各職場に安全ボードを設置し、安全衛生に関する資料を従業員全員に周知し、安全に対する意識を啓発しています。また安全衛生教育資料を更新し、ルールの遵守、問題が起きた時の対応などについて指導しています。



安全衛生教育資料

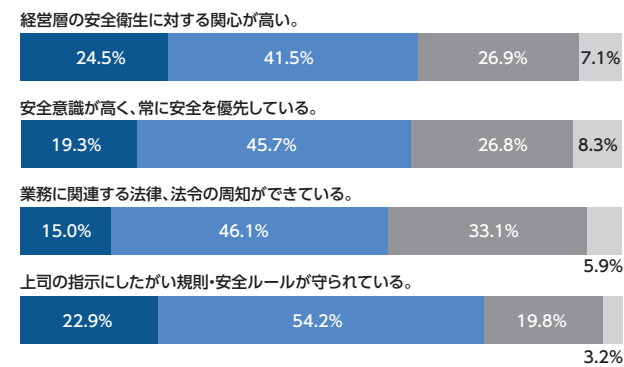
「従業員安全意識アンケート」の実施

従業員の声を反映させた安全衛生活動の推進と進捗状況の確認

2021年3月に安全・衛生教育を実施後、理解度テストと併せて、「従業員安全意識アンケート」を実施しました。従業員の意見を安全推進活動に活かすとともに、安全意識の向上に役立てます。毎年アンケート調査を実施し、従業員に安全意識を常に持つように促し、マネジメントとしても意識の変化を捉えます。

職場の安全意識に関するアンケート結果(例)

■ そう思う ■ どちらかというと思う
■ どちらかというと思わない ■ そう思わない



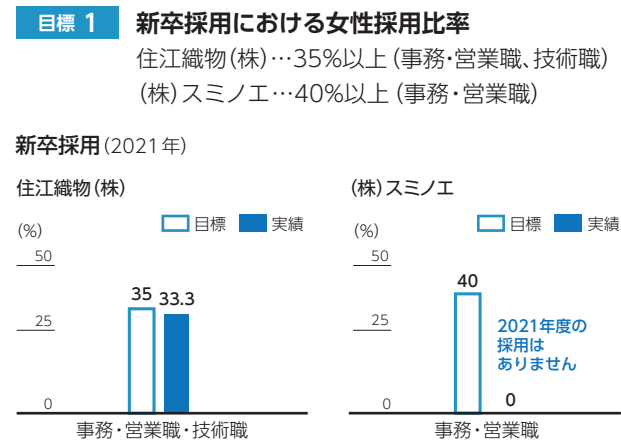
S 社会への取り組み

Social 従業員の活躍～一人ひとりが能力を最大限に発揮できる職場づくり

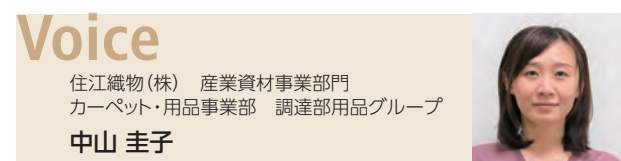
女性活躍推進

女性活躍推進に関する行動計画の進捗を報告します。

1. 計画期間：2020年6月1日～2022年5月31日
2. 目標と進捗状況



女性活躍インタビュー



現在の仕事内容を教えてください

自動車用品の製品部材の貿易事務を担当しており、書類作成・確認、各種申請の手続き、社内外とのスケジュール調整が主な仕事です。対応期日が決まっており、煩雑な書類手続きも多いですが、スムーズな取引が行えるよう日々取り組んでいます。

また、語学を活かすことが多く、お取引先様と自社との間に立つて、貿易取引を円滑に進める「仲介・調整役」を担うことでコミュニケーション能力が上がり、専門スキルを活かしながらステップアップできることも、この業務の魅力と感じています。

働きがいのある職場

私は結婚・出産後も仕事を続けていきたいと思っていました。通勤時間が長く、子供もまだ小さいため、今は時短勤務を利用しています。また、在宅勤務の活用も両立する上でとても役立っており、ありがたく感じています。

時短勤務であっても、サポート業務ではなく、責任のある仕事を任せてもらえることも、やりがいや仕事を続ける原動力になってい

目標 2 仕事と家庭を両立しながら男女がともに活躍できる環境づくりに向けた取り組みの実施

今年度は、時差出勤・在宅勤務の実施が仕事と家庭の両立に繋がり、今後の継続を希望する声が多く見られました。新型コロナウイルス感染症拡大防止策として開始した暫定的制度ではありますが、規程化への検討を行っていきます。

目標 3 男性社員の育児休業取得者 1人以上 女性社員の育児休業取得率 100%維持

2020年に3名の男性社員が育児休業を取得し、目標を達成できました。また、女性社員の育児休業取得率も100%を維持しています。今後も、対象者とその上司への育児休業制度および両立支援の周知・啓発を積極的行っていきます。

ます。困難なことや時間的なことで苦労もありますが、職場の方の協力や理解があり、私もそれに応えて業務を全うするように常に心がけています。

仕事と家庭のメリハリをつけて

子供を持つようになり、時間の使い方についてより考えるようになりました。

仕事では、子供の体調によって急に休暇をとらなければならないこともあり、優先順位を頭に入れて、効率的に業務を行うことを意識しています。勤務時間内に業務をすべて終わらせるため、明日やることをリストアップしてから退社し、当日はすぐに業務に取り組みるようにしています。

子育てでは、離れている時間が長い分、子供と過ごす時間は全力で向き合うことを心がけています。今の日課は、朝食を家族全員で食べることで、夜は夫と子供たちの話をして、子育ての不安やストレスを夫婦で共有することです。お互いに協力し合えるようにたくさん話し合いをしたこともよかったと思います。何より自分の健康が家族にも影響するので、早寝早起きの生活リズムを大切にしています。

今は手探り状態で前に進んでいますが、家族や仕事で携わる方と協力しながら、高い成果を上げることに注力し、さらなるスキルアップを目指し頑張っています。

シニア社員の活躍



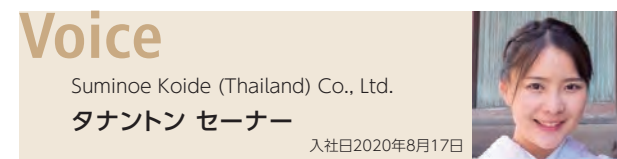
入社してから現在までを振り返ってみて

入社後すぐにタフト課に配属されて以来、ずっと現場に打ち込んできました。長い社歴のほとんどをタフト課で過ごしています。ただ、3年間ほどは外注工務という、協力会社を訪問し、製品の価格や納期を交渉する業務にも携わりました。入社20年経ってから、畑違いの業務で慣れるまで時間がかかりましたが、仕事仲間や妻に随分と助けられ、とても感謝しています。当時は仕事が辛いと感じることもありましたが、社外の方と話せる貴重な機会でしたし、現在の業務にも役立っているため、今となっては自分の成長に繋がるよい経験であり、転機だったと思っています。現場に戻ってからは、技術を継承するため次世代の教育に力を入れています。従業員の適性を把握し、個人に合った教育ができるように会社全体で取り組んでいます。色々ありましたが、この会社に入社してよかったと思っています。

仕事をする上で心がけていること

現場の整理整頓とコミュニケーションです。整理整頓は従業員の安全を守ることに繋がる上、作業効率も上がります。事故が起こらないように細心の注意を払って業務を行っています。

海外事業の現地社員の紹介



入社した理由

興味深く安定した会社だと思い、この会社の一員になることを決意しました。また、仕事で日本語を学ぶ機会もあり、新しい経験への挑戦だと思っています。

この仕事をしていてよかったと思うこと

よい同僚に恵まれていることです。おかげで毎日楽しく仕事ができていると思います。

コミュニケーションに関しては、仕事が辛い時でも人間関係がよければ続けられると自分自身が感じたからです。できるだけ職場では多くの人に声をかけ、その人が楽しめる話題を選ぶようにしています。今も昔もタフト課は雰囲気がよく、ありがたく感じています。

シニア社員へのメッセージ

とにかく健康に気をつけてもらいたいです。私はこれまで大きな病気も怪我もなくやってきましたが、適度にストレスを発散させることが健康の秘訣だと思っています。以前までは外に食事に行くことで発散させていましたが、コロナ禍の今は家のなかで楽しむようにするなど、工夫しています。

Message



同僚から寺下さんへのメッセージ

寺下課長はタフト課の要であり、いつも元気でユーモアがあり現場では安全第一の姿勢でパワフルに働いていらっしゃいます。私が入社して30年以上の付き合いですが、寺下課長の背中を見て育ったので、若いころは兄のように、今では尊敬できる上司だと感じています。

日本人スタッフと上手くコミュニケーションを取る秘訣

まず、よい聞き手となり相手が伝えようとしている意図を正確に捉えるように心がけています。大切な語彙については定期的に復習し、暗記するようにしています。

自分の国で好きなところ

好きな街はSuminoe Koide (Thailand) Co., Ltd. のあるチェンマイです。料理が美味しいですし、有名な観光地もたくさんあります。また、冬(乾期)は天気がよく、景色がきれいです。

S 社会への取り組み

Social 地域社会とのコミュニケーション(社会貢献活動)

住江織物グループでは、各事業所単位で地域に根ざした社会貢献活動を行っています。

インターンシップの受け入れ

インテック(株)は関西ラボラトリー(株)の協力を得て、2021年3月15～19日の間、大阪工業技術専門学校からインターンシップの受け入れを行いました。モノづくりを通じて個人と企業と社会の関係を学ぶことを目的に、インターンシップ生には独自のインテック(株)ガイダンスを作成してもらいました。最終日には研修で得たことを発表する機会を設け、感想と感謝の言葉をいただきました。



インターンシップ生の感想(発表用資料から抜粋)

テレトンへの募金

Suminoe Textile de Mexico, S.A. de C.V.では、2020年12月に社員からの募金をテレトンへ寄付しました。テレトンとは、障がいのある児童を支援し、無償のリハビリテーション施設を運営する南米の非営利団体であり、イベントの実施やチャリティ番組の放送を通して寄付を募っています。募金への返礼として、テレトンの施設に通っている子供から記念品(フォトスタンド)を贈呈され、人事部が代表して受け取りました。また、不遇な子供や若者への支援に取り組む非営利団体 Casa de Jesús(カサ デ ヘスース:キリストの家)へ、食品や生活用品などを寄付する取り組みも行っています。



記念品贈呈の様子

「エンジェルツリー」プログラムに参加

Suminoe Textile of America Corporationでは、毎年アメリカ救世軍が主催する「エンジェルツリー」プログラムに参加しています。「エンジェルツリー」プログラムとは、恵まれない子供たちと個人や企業を繋げ、プレゼントする機会を提供する活動です。2020年12月には75家族へクリスマスプレゼントを寄付し、アメリカ救世軍から感謝状とお礼のメッセージをいただきました。

この活動のほかにも、障がい者、高齢者、ホームレスの人々へ食事を届けるための寄付や、サウスカロライナ州の子供施設へキャンディバッグをプレゼントする社会貢献活動を継続的に実施しています。



アメリカ救世軍からの感謝状

「しながわ寺子屋」に参加

住江織物(株)東京支店では、未来協育推進機構が運営するイベント「しながわ寺子屋」に参加し、近隣の中学校でのキャリア教育に協力しています。2020年11月には品川区立荏原平塚学園を訪れました。第7学年の生徒ら10名に仕事内容の説明をし、先生をお客様に見立てて簡単なインテリアコーディネート体験を行いました。終了後には生徒から、「お客様の要望にそってコーディネートを組むことが難しかった」「今回の体験を通して自分の将来を考えていこうと思った」などの感想をいただきました。



しながわ寺子屋の様子



環境への取り組み

環境マネジメント～KKR+Aのテーマのもとに

健康 環境 リサイクル アメニティ
KKR+A

わたしたち住江織物グループは、「K…健康」、「K…環境」、「R…リサイクル」そして「A…アメニティ:快適さ」を基本理念として、室内環境改善やリサイクル材の活用、環境負荷の低減など、環境保全への取り組みを続けております。

環境基本理念

近年、地球環境の悪化が急速に進んでいます。その地球に暮らしている私たち人類が地球環境の維持と改善に努め、美しい自然を子孫に譲り渡すことは人類共通の使命であります。住江織物はこのことを認識し、従業員全員が環境保全に積極的に取り組むことによって、住みよい豊かな社会をつくります。

住江織物グループ環境対策宣言

宣言1 室内環境を改善し、快適な空間を実現します。

タバコ臭やペット臭、生活悪臭に加え、シックハウスの原因となるホルムアルデヒドなどを吸着・分解して消臭する「トリプルフレッシュ®加工」のカーペット、カーテン、壁紙、車両内装品や、アレルゲンの働きを抑制する「アレルブロック®加工」、お肌に優しい「スキンケア加工」などにより、安心・快適な空間を実現します。

宣言2 循環型社会に対応し、リサイクル材を積極的に採用します。

ペットボトルから製造されたポリエステル系の「スミトロン®」、使用済みタイルカーペットを回収し、リサイクルする「タイルカーペットリサイクルシステム」、リサイクル性に優れた鉄道車両用シートクッション材「スミキューブ®」、ビールケースなどから再生されたPP樹脂の簡易二重床「SEライト」などリサイクル材を積極的に活用して環境保全と資源の有効利用に取り組んでいます。

宣言3 CO₂削減と環境負荷を低減させる製品を提供します。

地球温暖化防止に向けた低炭素社会実現の一端を担うため、原料、製造、輸送、使用、廃棄といった製品のライフサイクル全体にわたって、環境負荷を総合的かつ定量的に評価するライフサイクルアセスメント(LCA)手法に基づく「ローカーボン製品」を開発・提供します。

宣言4 安心・安全な素材を使用し、健康と環境に配慮します。

法的な規制はもちろん、シックハウスの原因となるVOCや廃棄時に問題となる重金属などを含まない安心・安全な製品提供とともに、ウール・麻・綿などの天然素材も積極的に活用します。また、火災時に有毒ガスの発生の少ないオレフィン系床材などで、人に優しい製品づくりに努めます。

宣言5 製造から製品に至るまで、省資源・省エネルギーに取り組めます。

製造時における材料、副資材、水、エネルギーのロス低減による資源の有効活用を図るとともに、省エネ設備の更新推進、品質向上、製品の軽量化、容器・梱包の簡素化、減量化を図ります。また、輸送効率、使用効率、廃棄効率を追求し、省資源・省エネルギー化を推進します。

宣言6 最新情報に基づき、環境負荷物質の適正管理を推進します。

製品に使用する材料に対して、特定の化学物質の含有に關する制限が、内外ともに強化されています。この対応として、対象製品すべてにわたって確認し、サプライチェーンマネジメント(SCM)の考え方に基づいた使用材料の適正管理を図るとともに、最新の安全性に関する情報入手・把握に努めます。

宣言7 エコを意識した製品を提案・提供します。

製品の見た目や機能面での環境配慮だけでなく、製造の過程で用いる資源やエネルギーなどを最小化し、易リサイクル化、製品の長寿命化、廃棄処理の最適化を見据えた「エコデザイン思想」に基づく、製品およびシステムの提案・提供に努めます。

E 環境への取り組み

Environment 環境マネジメント～KKR+Aのテーマのもとに

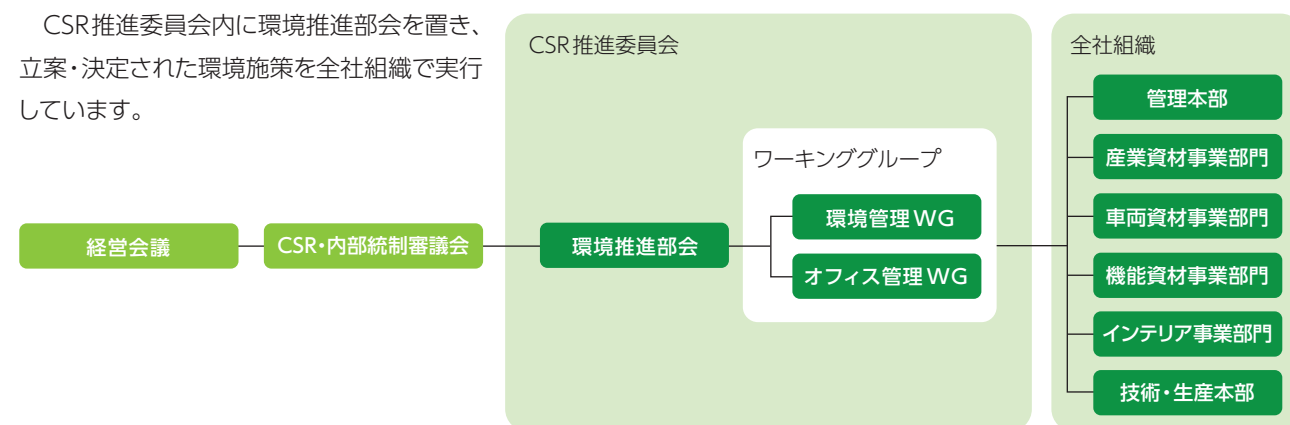
● 行動指針

環境保全を実施するにあたって

- 1 私たちは、企業活動全般にわたって環境を汚染することのないように配慮しつつ、積極的に省エネ・省資源・リサイクルを推進します。
- 2 私たちは、環境に配慮した技術と商品を開発することにより、生産から販売、廃棄に至るまで商品ライフサイクルを通して環境保全に努めます。
 - ①省エネ、省資源技術の開発
 - ②リサイクル技術・リサイクルシステムの開発
 - ③環境負荷がより少なく、安全性がより高い原材料への置き換え技術および商品の開発
 - ④室内環境を改善し、健康および快適性に貢献する商品の開発
- 3 私たちは、地域社会とのコミュニケーションを通じて社会との共生をはかり、全従業員が小さなことでもできることから行動を起こします。
- 4 私たちは、環境保全推進のため社内体制の整備と、全従業員の環境意識の高揚に努めます。

● 環境推進体制

CSR推進委員会内に環境推進部会を置き、立案・決定された環境施策を全社組織で実行しています。



● 環境マネジメントシステムの導入状況

2000年度に生産事業所である奈良事業所がグループとして初めてISO14001認証を取得。その後順次導入し現在国内の5生産事業所においてISO14001の認証を、1事業所でエコ・アクション21の認証を取得しています。

	ISO14001:2015			エコ・アクション21:2009
	奈良事業所・滋賀事業所	帝人テクロス(株)	尾張整染(株)本社工場・石川工場	丹後テクスタイル(株)
審査登録機関	日本規格協会	日本品質保証機構	日本品質保証機構	持続性推進機構
登録番号	JSAE 235	JQA-EM1519	JQA-EM3144	0009522
登録	2000年5月	2001年4月	2003年3月	2013年7月
更新	第7回済(2021年5月)	第6回済(2019年4月)	第6回済(2020年7月)	第4回済(2021年7月)

● エコチャレンジ2021

環境との関わり

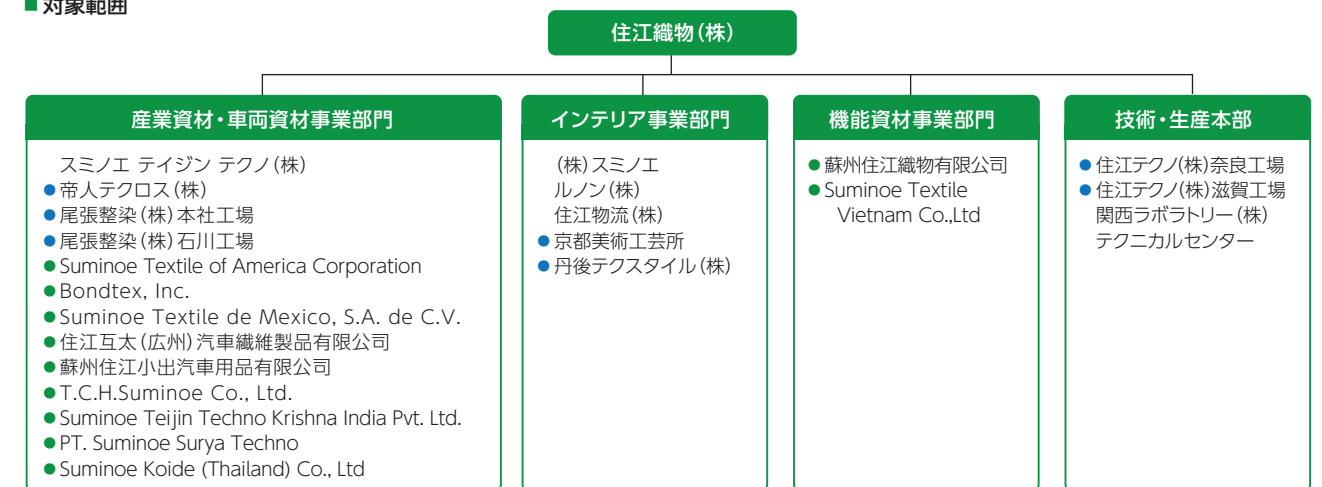
当社グループの事業と環境とは、製品の開発設計から資材調達・生産・販売・物流、そして使用・廃棄・リサイクルまでのライフサイクル全体を通して、また日頃の事業活動においても深い関わりを持っています。

当社グループでは、製品のライフサイクル、また事業活動全体が環境に与える影響を把握するよう努め、環境負荷低減に取り組んでいます。特に、使用済みタイルカーペットから再生された塩ビパウダーや、ペットボトルから再生された原綿やポリエステルペレットなどの再生材料を積極的に使用するなど、環境にやさしい製品づくりを進めています。CSR活動においても環境配慮に重点を置き、“エコチャレンジ2021”の目標を掲げ、全グループで取り組んでいます。

エコチャレンジ2021

環境に関する行動目標として、エコチャレンジ2021を設定し、2020年度の1ヵ年を行動期間として取り組みを進めました。

■ 対象範囲



● 国内生産事業所：再生資源利用、産業廃棄物発生量（再資源化率、埋立処分率）、PRTRの対象 ● 海外生産事業所：CO₂排出量のみ対象

■ 期間 2020年度(1年計画、データ期間2020年6月～2021年5月)

■ 行動目標と2020年度実績

	取り組み項目	指標	基準年度	最終目標値	評価
1	地球温暖化防止	CO ₂ 排出量の削減	2019年	±0%(原単位)	△
2	省資源	再生資源利用率の向上	2019年	1%向上	○
3	廃棄物の3R	産業廃棄物発生量の削減	2019年	±0%(原単位)	△
		再資源化率の向上	—	65%以上	△
		埋立処分率の低減	—	10%以下	△
4	環境汚染防止	大気汚染防止(NOx排出量削減)	2019年	±0%(原単位)	○
		PRTR取り扱い量の削減	2019年	±0%(原単位)	△
5	グリーン活動推進	事務用品のグリーン購入率向上	—	95%以上	△
6	製品のLCA評価促進		—	LCA評価6アイテム	○
7	環境に配慮した技術の開発促進		—	1件	○
8	環境に配慮した製品の開発促進		—	3件	○
9	事業活動における生物多様性の保全活動		—	—	—
10	海外生産事業所における環境負荷の集約と低減		—	全海外生産事業所のデータ集約	○

原単位：分母を連結売上高にして計算する。
換算係数：NOxの換算係数はエコアクション21 2002版で算出。

○：達成 △：一部達成 ×：未達

E 環境への取り組み

Environment 環境マネジメント～KKR+Aのテーマのもとに

● エコチャレンジ2021 (2020年度実績)

エコチャレンジ2021では、2020年度(2020年6月～2021年5月)の1ヵ年を行動期間に、2019年を基準年として取り組みを進めました。

地球温暖化防止

CO₂排出量の削減

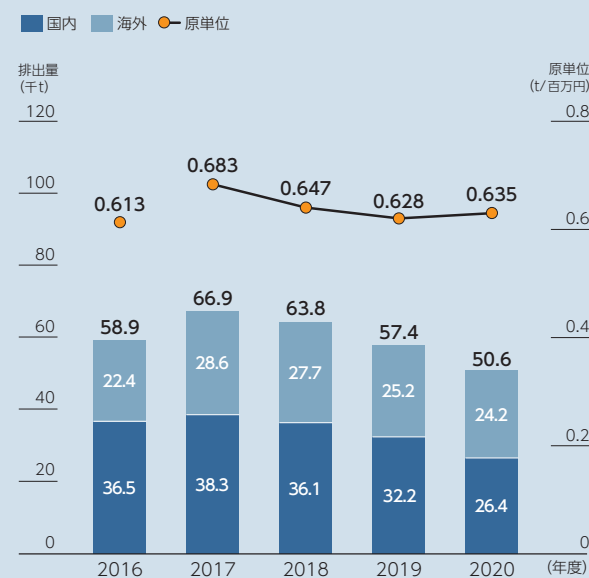
企業活動が地球温暖化に及ぼす影響をCO₂排出量*で確認しています。

東日本大震災発生の影響で電力会社のCO₂排出係数が大幅に変動したため、2012～2019年度は使用エネルギーの熱量換算値を地球温暖化防止の指標としてきましたが、エコチャレンジ2021ではCO₂排出量での評価を再開しました。

CO₂排出量は、海外事業所の集約対象を従来の5社から8社へ拡大した2017年度以降、11社算入となった2020年度まで、国内・海外とも減少していますが、原単位は2020年度は前年度を上回りました。

* 国内は温対法、海外は2006 IPCC Guidelines for National Greenhouse Gas Inventoriesに基づく各国の排出係数で算出。

■ CO₂排出量の推移 [海外含む]



省資源

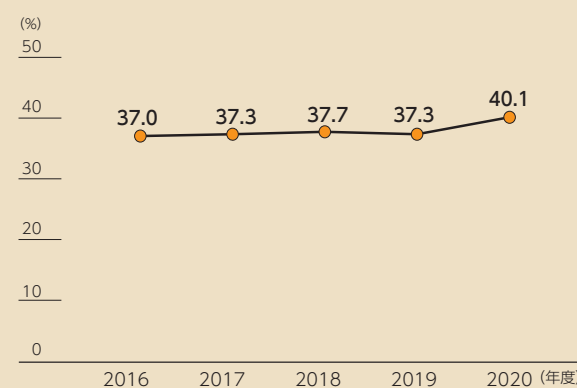
再生資源利用率の向上

再生資源を原材料に積極的に投入、省資源化を進めています。

水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®」に、再生繊維「スミロン®」・「ECONYL®」、および使用済みタイルカーペットからの再生塩ビパウダーを使用。また、ニードルパンチカーペットに再生ポリエステル綿を使用するなど、様々な製品で再生資源利用を推進しています。

エコチャレンジ2021では、国内主力工場使用材料の再生資源利用率を確認しています。

■ 再生資源利用率の推移

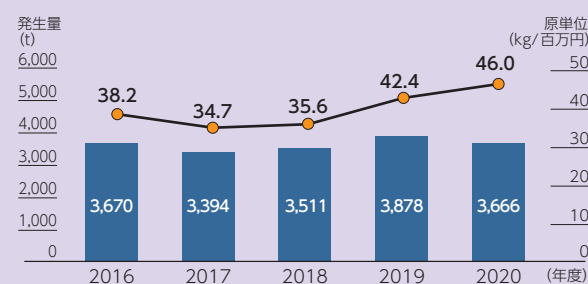


廃棄物の3R

産業廃棄物発生量の削減 再資源化率の向上・埋立処分率の低減

生産に投入される材料のロス削減や不適合品の撲滅、また資源の有効活用など、廃棄物発生抑制に努めています。産業廃棄物発生量は2019年度より減少しましたが原単位では増加。再資源化率は2019年度より向上しました。

■ 産業廃棄物発生量の推移



■ 再資源化率・埋立処分率の推移



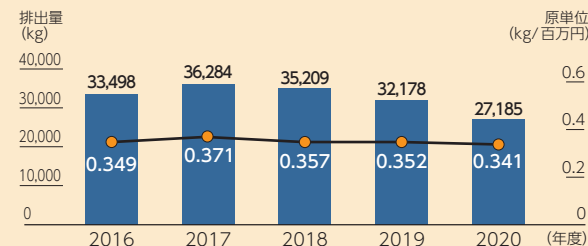
環境汚染防止

大気汚染物質排出量の削減 PRTR取り扱い量の削減

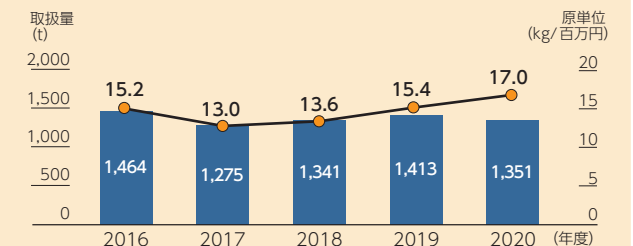
大気汚染物質には、窒素酸化物(NO_x)、硫黄酸化物(SO_x)、粉じんなどがありますが、代表としてNO_xを記載しています。NO_xの排出量は、エコアクション21の2002年版の低減対策が行われていない施設の排出係数で算出しています。

各種規制により使用制限される化学物質について、より安全な代替物質への置き換えを進めています。

■ NO_x排出量の推移



■ PRTR取り扱い量の推移

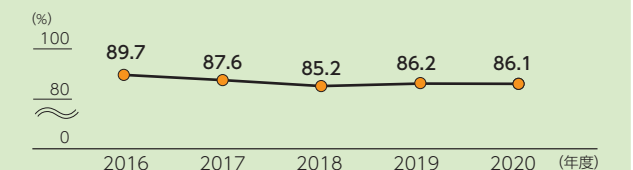


グリーン活動推進

事務用品のグリーン購入率向上

資源採取から廃棄に至る、ライフサイクル全体にわたる環境負荷の低減を考慮した物品などの積極的な購入に努めています。

■ 事務用品のグリーン購入率の推移



E 環境への取り組み

Environment 環境マネジメント～KKR+Aのテーマのもとに

● エコチャレンジ2021(2020年度実績)

製品のLCA※評価促進

製品のLCA評価体制を整え、2015年度より自社内で評価を行っています。
2020年度は15アイテムの評価を行いました。

※ LCA: 製品の原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るまでのライフサイクルにおける投入資源、環境負荷およびそれらによる地球や生態系への潜在的な環境影響を定量的に評価する手法、ライフサイクルアセスメントの略称。

環境に配慮した技術・製品の開発促進

環境に配慮した技術の開発促進

優れた衝撃吸収性能と軽量性

『発泡制振シート』

移動空間の音響環境改善など、衝撃吸収性が求められる多様な場面での環境負荷を軽減

環境に配慮した製品の開発促進

- 1 天然素材をイメージした、環境にやさしい自動車用シート表皮材『デニム調「エコローレ™」』
- 2 東京地下鉄 有楽町線・副都心線 17000 系向け『消臭・抗菌・抗ウイルス加工ジャガードモケット』
- 3 抗ウイルス、抗菌、消臭、抗アレルギーなどの様々な効果を発揮するプレフィルター『スミノエフレッシュ™ フィルター』

海外生産事業所における環境負荷の集約と低減

海外生産事業所のデータ集約

2020年度にSuminoe Textile Vietnam Co., Ltd. (ベトナム) の環境データ集約を開始しました。

事業活動における生物多様性の保全活動

取り組み方針

① 事業活動が生物多様性に及ぼす影響の低減

- 生産事業所内および周辺での生物多様性のモニタリング調査を行う。
- 植樹を行う場合は、外来種ではなく、地域に自生している在来種を使う。
- 事業所周辺の清掃を定期的に行い、草刈りなどで環境を整備する。
- 生物資源を原材料として使用する場合は、その持続可能性を確認する。
- リサイクル原材料を使用した製品開発とリサイクルシステムの構築を積極的に行う。
- 環境マネジメントシステムに生物多様性の保全活動を組み入れる。
- 事業所ごとに取り組める新たな生物多様性の保全活動を推進する。

② サプライチェーン全体での生物多様性への影響低減に向けたお取引先様への活動

- グリーン調達ガイドラインで、お取引先様への生物多様性保全活動の協力を依頼する。

③ 社会貢献活動

- 森林保全活動を行う団体を支援する。
- みどりの募金活動に協力する。

取り組み実績

事業所ごとに特色のある活動を実施しています。

〈住江織物(株) 奈良事業所〉

事業所の南を流れる岡崎川周辺を桜並木の遊歩道に整備する「安堵桜友会」に参加し、桜の手入れなどに協力しています。

〈住江テクノ(株) 滋賀工場〉

工場敷地内にて、甲賀市の花であり、人と自然の共生の象徴といわれる「ささゆり」の増殖に取り組んでいます。

〈尾張整染(株) 本社工場〉

木曽川などでホタル飼育に取り組む「一宮平成ホタルの会」に賛助会員として参加しています。

c o l u m n

廃棄漁網の再資源化 —ALLIANCE FOR THE BLUEでの取り組み ～SDGsの目標達成に向けて～

住江織物(株)は、2020年からALLIANCE FOR THE BLUE(アライアンス・フォー・ザ・ブルー)※に参画し、海洋プラスチックごみ削減を目指した活動に取り組んでいます。

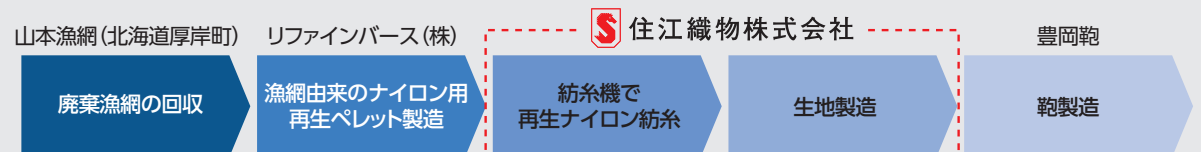
環境省の調査によると、漁網は年間約6000トン廃棄され、漁網やロープなど漁業に関するごみが日本で発生する海洋プラスチックごみの約3割を占めるとされています。世界経済フォーラムの報告書では、2050年には海洋プラスチックごみ量は重量ベースで魚の量(7億5千万トン)を超過すると推定されており、世界でも海洋プラスチックごみに注目が集まっています。

今回ALLIANCE FOR THE BLUEの取り組みとして、廃棄漁網由来の再生ナイロンを使った鞆の制作に参画し、制作工程のなかで、北海道で廃棄された漁網の再生ペレットを使用したナイロンの紡糸と生地製造を担当しました。当社は約30年前に使用済みペットボトルから再生ポリエステル糸「スミロン®」糸を製品化しており、その取り組みのなかで培ってきたリサイクル技術を活かしています。今後、当社グループ製品での活用や、他企業との協業による商品化を目指します。

これからも積極的にパートナーと協働で廃棄物のアップサイクルに取り組み、様々な方向からサステナブルな社会の実現へ向けて貢献するとともに、SDGsの目標達成を目指していきます。

※ ALLIANCE FOR THE BLUE(アライアンス・フォー・ザ・ブルー)は、「企業と生活者の共創による、海の豊かさを守る商品づくりと持続可能な仕組みづくりを実践することにより、めぐみ豊かな海を次世代に引き継ぐ」ことを目的に活動する一般社団法人です。プラスチックの原料となる石油化学業をはじめ、日用品や包装材メーカー、小売、リサイクルなど多業種の企業が加入しています。

● 廃棄漁網由来の鞆ができるまで



編集後記

「CSRレポート2021」をお読みいただき、ありがとうございます。

当社グループのCSR活動においての考え方や取り組み実績について整理し、わかりやすく表現しました。国際的な社会的課題の要求が高まるなか、信頼される企業を目指し、これからも一層CSR活動の着実な実践を行います。つきましては、今後の参考とさせていただくため、当社グループのCSR活動について忌憚ないご意見をアンケートにてお寄せいただくと幸いです。

CSRレポート作成メンバー同